

227号

今月の発信—あこら新宿



なぜ今「自賛史観」か

- ◆なぜ私は「憂慮する朝鮮人・アピール」への賛同を呼びかけるのか 徐 京植
- ◆中学教科書から「従軍慰安婦」記述の削除を要求する 自由主義史観研究会
- ◆右派勢力の教科書攻撃に関する略年表
- ◆自治体の決議と市民からの抗議 岡山県議会／新潟県栃尾市議会ほか
- ◆テレビ朝日「朝まで生テレビ」従軍慰安婦問題と歴史教育「要約ほか

東大・藤岡信勝教授らによる〈自由史観研究会〉の『教科書が教えない歴史』はたちまちベストセラーとなり、講演会は各地で盛況、地方議会では「教科書の中の“従軍慰安婦”記述の抹消」を求める決議が続々可決されている。

なぜ「自賛史観」か、それに対する反論は——双方の主張をそのまま資料として掲載。

『あごろ』連載中の「女ひとりドケチ旅」がついに単行本になりました！

女ひとりドケチ旅

中国—パキスタン—イラン—トルコ—東欧へ

辻 みゆき 著

定価1500円＋税
四六版 208頁

神戸発 シルクロード経由 ポーランド行き

神戸からポーランドまで44日間、なんと8万円。船と汽車とバスを乗り継いで、乙女のひとり旅。そこで出会ったヒトとコト——。夢の実現のためには恐れを知らぬ、みゆきさん。大きなリュックを背に、ひとりユーラシア大陸に行く。夢ありロマンあり、そしてちょっぴり危険も……。なんと今はハンプルク在住の人となってしまった彼女は言う。

「人生はやっぱり旅だ」——。
旅の思い出の絵と写真がいっぱい！

- I さらば日本よ、わたしは海を渡る
- II そして火車は大陸をゆく
- III シルクロードは女のロマン
- IV 星降る国境の村からイスラムの国へ
- V おどかさないでよ、イランの旅
- VI ボスポラス海峡を渡ると
そこはヨーロッパだった
- VII ポーランドにて——そして、再び西へ



みゆき
16.7.1991
神戸発

サイレント・マイノリティの

東京都新宿区新宿1-9-4 ☎160

BOC出版部 電話 03-3354-3941

振替 00130-3-39331

気がつけば25年 斎藤 千代 2

もはや黙っているべきではない —

なぜ私は「憂慮する朝鮮人・アピール」への賛同を呼びかけるのか 徐 京植 4

「自由主義史観研究会」「新しい歴史教科書をつくる会」等の動きを憂慮する在日朝鮮人のアピール 16

日本の国会議員、学者達および極右勢力の「慰安婦」内容削除活動に対する韓国市民からの抗議 19

右派勢力の教科書攻撃に関する略年表 21

「緊急アピール」中学教科書から「従軍慰安婦」記述の削除を要求する 自由主義史観研究会 41

「新しい歴史教科書をつくる会」創設にあたっての声明 49

自治体の決議と反論 岡山県議会／新潟県栃尾市議会ほか 51

月刊『SAPIO』に対する福岡県市民団体の申し入れと『SAPIO』の回答 60

インターネットで流された「教科書は正デモ」お知らせ 66

日本教育会熊本支部 藤岡信勝氏講演会に対する市民の抗議行動 70

長崎県西彼杵郡琴海町議会に地元右翼団体が出した請願書と市民の抗議行動 77

女性団体による「新しい歴史教科書をつくる会」への抗議書 80

テレビから 朝まで生テレビ「従軍慰安婦問題と歴史教科書」 82

沖縄から へ基地・軍隊を許さない行動する女たちの会／総会／沖縄県・米国へ女性要請団派遣ほか

阪神から いま、神戸は、いま、私は／「被災者に公的援助を」市民Ⅱ議員立法修正案発表

集会から 「自画自賛史観」を批判する／三重大学公開シンポジウム「女性政策と草の根の女性活動」 105

あごらのあごら 109

96

二十五年

斎藤千代

一九七二年二月十七日産ぶ声をあげた『あごろ』が創刊二十五年を迎えた。

三号雑誌に終わるだろうと、人も思い、自分も思っていた小さな雑誌が、四半世紀生き続けたのは、夢のようなこと。無数の方々の、さまざまなお力添えがあったからこそ、と、改めて感謝の思いで胸が熱くなる。

一九六〇年に、前身の〈BOC〉の活動を始めてから、ハガキ通信『BOC通信』をメンバーに送り続けていたが、もっと思えばふれる情報を発信したい気持ちは年ごとにふくらみ、新しい雑誌を目指して実際の作業を始めたのは六〇年代の終わりからだったと記憶する。ほとんどの原稿は、七〇年の初めには入手していた。それが遅れたのは、資金の問題もあったが、小なりとはいえ情報を発信することの怖さ、ましてそれに定価をつけて売ることのためらいがあったからだ。

最後に頂いた松谷みよ子さんの「走る」を読んだとき、原稿用紙の文字がにじむほど涙があふれた。家庭と仕事の板挟みの中で働き続けているたくさんの女たちへの応援歌。これなら二百円で売っても許されるだろうと、決心がついた。

活字組みA5版九六ページ、二千部。小さなグループとしては大それたことだったが、情報を発信する以上は、読みにくいガリ版にはしたくなかった。印刷原価がかかる分、情報を精選しようと考えた。私の手もとからとうになくなった創刊号の復刻版をいま手にして、それなりにあふれている真剣さに、あの頃の時代の波、そして失われた自分の若さを思い出す。

気がつけば

二月一日、二日、古くからのメンバーを中心に、十数人が名古屋に集まった。〈あごろ〉の使命はもう終わったのでは、という声もあがった。しかし「これだけ一貫した志を持ち、これだけ骨太の人びとを揃えているグループはない」という福田光子さんの声に、もう一度初心に戻って、次の四半世紀の構想を練ることにした。

『あごろ』にカバーをかけてひそかに読まねばならなかった二十五年前と今とでは、女の状況は大きく変わった。とくにポスト北京以後はエンパワメントの大合唱。いま日本で元気なのは、唯一、女だけのようにもみえる。その一方、『あごろ』創刊の頃、巷の女たちにあふれていたある種の志は、かなり希薄になったようにも感じられる。繁栄を誇っていた日本の『繁栄』の虚飾が剥がされている今、都市と農漁村、総合職と一般職、女と女の格差は広がり、二十代は、もう市川房枝も山川菊栄もほとんど知らない。

掛け声はかけまい、旗は振るまい、と、二十五年、〈あごろ〉は、正確な資料を提供し、事実の裏の構造を注視することをモットーにしてきたが、この方針も含めて、あなたは、〈あごろ〉に何を期待し、あなたは、何を実行なさるのか、とくに若い方々のご意見を聞く節目の二十五周年でありたいと思う。

二十五年記念のパネルディスカッションを、この八月東京で行なう。テーマは「戦後日本フェミニズムの源流を考える」。各地でもそれぞれのテーマで展開したい。それは、壇上の声を伝える場ではなく、参加者のすべてが、二十一世紀へ向けての思いを発信する場でありたい、と願っている。

なぜ今「自賛史観」か

「日本軍慰安婦」への賠償をめぐる日本政府の対応の誤ちは、私たちがかねて憂慮したとおり、ますます深刻な状況になった。

急旋回する右傾化の動きの中で、東大・藤岡信勝教授らによる〈自由主義史観研究会〉の『教科書が教えない歴史』は、たちまちベストセラーとなり、各地で讀願活動が活発に行われるとともに、岡山・新潟……はじめ、地方議会での「教科書の中の『従軍慰安婦』記述の抹消」を求める決議が続々可決されるに至った。地域によっては、この問題をまださほど深刻に受けとめてないところもあるかと思うが、一つ誤てば、火種は燎原の火のように燃え広がりがかねない。この号では、この間に入手した両者それぞれの主張をそのまま資料として提供する。

意見・感想・反論を、ぜひ寄せてほしい。

(あこら編集部)

もはや黙っているべきではない

―なぜ私は「憂慮する朝鮮人・アピール」への賛同を呼びかけるのか

徐^ソ 京^{キョン} 植^{シム}

へ一つのセクトが、極めて小さなセクトだとはいえ、執拗なまでに、あらゆる努力を傾注し、あらゆる手段―ピラ、作り話、漫画、自称するところによれば学術的かつ批判的な研究、専門雑誌―

を利用して、真理ではなく―真理は打ち砕きえないものである―真理に対する自覚を打ち砕こうとしているのである。(中略)記憶の暗殺者たちは自分たちの目標をちゃんと選んだのだ。ある共同体は何千という、今もなお苦しみぬいている人々をかかえ、そのことによって自分自身の過去と結ばれているわけだが、彼らはそうした人々の神経を逆撫でにしてやりたいと思っているのである。そのような共同体に対して包括的に嘘つきだ、詐欺師だと言って告発しているのである。私もこの共同体の一員である。

―P・ヴィダル＝ナケ『記憶の暗殺者たち』石田靖夫訳より

最初に聞くに耐えない言葉を書き写すことから、この文章を始めなければならない。まったく胸の悪くなるような言葉だが、私たちには耳新しいものではない。それどころか、これと同じようなひそひそ話や床屋談義は、今までも、学校、職場、地域……日本社会のあらゆる場所で書かれてきたし、いやでも私たちの耳に入ってきた。

しかし、今回のものは、もはやひそひそ話ではないのだ。

慰安婦のことなら私はこの欄に一、二度書いている。戦後五十年のうち、四十なん年だまっていたにわかに騒ぎだしたのは首相や大臣が侵略云々と謝罪したのがきっかけで、謝罪するなら補償せよと言いだしたのである。／これよりさき「どうしてそんなに謝るの」と私は聞いてみたが領かないものはない。教科書問題は一言で尽きる。日本の悪口を書いた教科書を日本の中学生に与えるわけにはいかぬと一蹴すればいいのである。今ごろ騒ぎだしたのは「金ほしさ」のためだといえばこれも誰もうなずく。

引用したのは山本夏彦が『週刊新潮』(96年12月19日号)に書いたコラムの一節である。同じ頁に「新

しい歴史教科書をつくる会」の発足記者会見（12月2日）の様相を伝える写真が大きく載っている。山本夏彦は発起人席の右端に座っている。その隣は「自由主義史観研究会」の藤岡信勝、中央は西尾幹二、見慣れぬ人物二人を置いて左端は漫画家の小林よしのり、である。

もと「慰安婦」（本来なら日本軍「性奴隷」と呼ぶべきである）だったと名乗り出ている女性の数は現在、韓国で一六四人、朝鮮民主主義人民共和国で約二六〇人、在日朝鮮人の一人、ほかに中国、フィリピン、マレーシア、インドネシアなどを併せて、合計二万三千人近くにのぼるという。（戦後補償実現市民基金）による）

「新しい歴史教科書をつくる会」発起人の山本夏彦は、この人々に対して包括的に、嘘つきだと断言しているのである。

——ほんとうなのか？

できることなら私は、彼ら一人一人の目を見つめて問うてみたい。上記の四人以外の発起人、阿川佐和子、坂本多加雄、高橋史朗、林真理子、深田佑介にも、賛同人として名を連ねた言論界と経済界の七十八人にも、問うてみたい。

——ほんとうか？　ほんとうに、あなた方は日本の侵略戦争と植民地支配の犠牲者たちが「騒ぎだしたの」は『金ほしさ』のためだ」と、互いに頷き合っているのか？

もと「慰安婦」たちは、自分たちが求めているのは真実と正義、責任者の謝罪であると繰り返し主張しているではないか。当事者のこのような言葉が嘘であると、あなた方がそんなにも自信満々に決め付けるのはなぜなのか？　朝鮮人をはじめ貧乏なアジア人は金のためならどんな嘘でも平気でつく、という「確信」の故なのか？

こうした《確信》こそは、他民族蔑視と女性蔑視の土壤にしか生育しない毒草である。

謝罪に補償が伴わなければならないのは理の当然である。アジアの戦争犠牲者たちが加害責任者である日本国にそれを要求することは正当な権利だ。また、差別と貧困の中で刻々と年老いていく彼女らのなかに、かりに早急な金銭的援助を渴望している人が一部いたとしても、それを「金ほしき」などという野卑な言葉で侮辱することが許されるのか。

実際には彼女たちの多くは、日本の国家責任を曖昧にしようとするものだと、いわゆる「国民基金」の給付金を受け取ることを拒絶している。貧しく年老いた彼女たちが目の前にブラ下げられた金を拒絶し、現実には勝訴を期待することが困難な訴訟を闘っているのは正義の実現を求めているからこそである。にもかかわらず、日本人のある者は名分の通らぬ金を何とかして握らせようと彼女たちを掻き口説き、別の日本人は「金ほしき」の嘘つきであると大声で罵っているのだ。こんな理不尽があるだろうか。

他者を嘘つきと決め付けて互いに領き合っている「新しい歴史教科書をつくる会」の人々よ、優越感と自己中心主義の毒に酩酊した自らの顔を鏡に映してもみよ。

もちろん、このように言ったところで、おそらく彼らの誰も恥じ入ったりはしないだろう。その鈍感さと厚顔を前にして、まことに転倒した構図だが、問うているこちらが顔を赤らめる結果になるだろう。だから私は、この人々に次のように言うことにする。

これ以上、私の母を辱めるな。

実際の私の母は、もと「慰安婦」ではない。彼女たちとまったく同世代である母は、祖国朝鮮が日本

に植民地支配されていた一九二八年、まだ幼い身で日本に渡ってきた。子守奉公や西陣織工場の女工をはじめ底辺の労働に明け暮れた。「慰安婦」にはされずにすんだが、そのことはちょっとした偶然にすぎない。あの時代の朝鮮人、とりわけ貧しく何の後ろ盾もない女性たちを襲った植民地支配の暴風が、たまたま私の母をこちらに撥き飛ばし、他の女性たちをむこうに撥き飛ばしたにすぎないのだ。

かつて日本軍に「性奴隷」の生活を強いられ、その挙げ句に戦場に遺棄された彼女たちは、戦後は男性中心社会（この点については、私自身を含む朝鮮人男性も無実ではない）の圧力の下で四十年以上も泣き寝入りさせられてきた。そして今また、「金ほしさ」の嘘つきであると辱められている。

彼女たちの運命は私の母のものだったかもしれないのだ。それは、大いにありえたことだ。彼女たちは、私の母なのである。

もうこれ以上、私の母を辱めるな。私たち朝鮮人を辱めるな。

*

*

「新しい歴史教科書をつくる会」とは、そもそも何か。昨年十二月二日に発表されたその「声明」から抜粋してみよう。

（前略）この度検定を通過した中学七社の教科書の近現代史の記述は、日清・日露戦争をまで単なるアジア侵略戦争として位置づけている。そればかりか、明治国家そのものを悪とし、日本の近現代史全体を、犯罪の歴史として断罪して筆を進めている。例えば、証拠不十分のまま「従軍慰安婦」強制連行説をいっせいに採用したことも、こうした安易な自己悪逆史観のたどりついた一つの帰結であろう。（中略）幼いナショナリズムを卒業しているわが国と、いま丁度初期ナショナリズムの爆発期を迎えている近隣アジア諸国とが歴史認識で相互に歩み寄るとしたら、わが国の屈服という結

果をもたらずほかはないだろう。(中略)われわれはここに戦後五十年間の発想を改め、「歴史とは何か?」の本義に立ち還り、どの民族もが例外なく持つている自国の正史を回復すべく努力する必要を各界につよく訴えたい。(以下略)

「暗黒・反日・自虐史観」などというのはこれまでも聞き慣れた悪罵だが、今度は「自己悪逆史観」などという、さらに品のない造語まで登場した。

こういう低劣な罵声が聞こえてくる度に、当たり前すぎることを繰り返さなければならないのは、まったく消耗である。うんざりさせられる。しかし、それでも私はもう一度言わねばならないだろう。

もちろん、日清・日露戦争は「アジア侵略戦争」であった。その結果、朝鮮は日本に外交自主権を奪われ、次いで植民地支配されたのだ。

ここでは差し当り朝鮮についてだけ言うが、日本の近現代史は「犯罪の歴史」である。朝鮮半島の土地と資源の収奪、民族差別賃金での酷使、民族運動に対する残忍な弾圧、日本語強要・神社参拝強要・「創氏改名」などの皇民化政策、軍人・軍属・「慰安婦」としての侵略戦争への動員、工場・鉱山・炭鉱などへの強制連行と強制労働、等々、どれ一つとして犯罪でないものはない。こうした犯罪がなければ、在日朝鮮人という存在自体もなかった。七十万人在日朝鮮人が、これらの犯罪の生き証人である。

敗戦後も日本は国家としてこれらの事実を認めようとせず、責任を明らかにせず、まともな謝罪も補償もしようとしてこなかった。そのツケがいま噴き出しているのだ。

「新しい歴史教科書をつくる会」の主張とは逆に、来年度採用予定の歴史教科書においても、こうした日本の加害と犯罪にかかわる記述は不十分であり通り一遍であると言わざるをえない。「従軍慰安婦」という言葉だけを持ち出すのではなく、日本軍の「性奴隷」と明確に位置付け、証人の証言を詳細に引

用するなど手厚い記述が必要である。しかし、私の目にはまったく不十分な、こうしたささやかな変化の芽すら「新しい教科書をつくる会」の類の人々には許しがたいものであるようだ。

「声明」を一読すれば明白であるように、彼らのいう「ナショナリズム」は国家主義そのものである。しかし、実際には民衆の利益は国家の利益と同じではないし、被圧迫民族のナショナリズムと帝国主義国家の国家主義とは同じではない。彼らはそのことを理解できないか、あるいは意図的に歪曲している。アジア諸民族と同じ意味においては、日本民衆の多くもまた日本国の侵略政策の犠牲者であった。にもかかわらず、日本国民たちの多くは「国家」から自立した自己を想い描くこともできないほど自己と「国家」とが癒着してしまっているため、「国益」という呪文を唱えられると、中身を検証することもないまま一も二もなくひれ伏してしまう。彼らはそのことを熟知しているのである。

「新しい歴史教科書をつくる会」とその仲間たちは、日本「国家」の歴史的犯罪行為を否認するため、強弁を重ねる一方で、アジアの国家主義対日本の国家主義という対立構図を誇張し煽り立てている。かりに自分たちが「犯罪」を犯したのだとしても「国益」と「国益」が衝突したのだからお互いさまだ、強いもの勝ちではないか、というわけである。だから彼らによれば、戦争に勝った日清・日露戦争の指導者たちは正しかったことになり、悪かったのは太平洋戦争に敗北した「無謀な軍部」だということになる。

こうした国家主義のレトリックは稚拙きわまる紋切型にすぎないが、大学講師として日本の若者たちに向かい合っている私の実感からいうと、このレトリックに幻惑される者は年々増えているようだ。自分「国家」などには何のリアリティーも感じない、自分はそんなものとは無関係な「個人」であると広言している若者ですら、そうである。その理由は、彼らが「国家から与えられる豊かさ」という幻想に骨がらみにされており、現在の「豊かさ」を失いたくなければアジア人からの「金ほしき」の攻勢に

屈してはならないという強迫観念にかられて、無意識のうちに日本国民という「特権」にしがみつこうとしているからだ。それはつまり、国家主義の自覚すら欠いた「経済大国ナショナリズム」にほかならない。したがって、日本はお金持ちなのだから可哀相なアジア人に多少の金を払ってことを穏便に済ませればよいのだという日本国民の多数派の意識は、状況の推移によつては、つまり「お金持ち」であることが脅かされると感じたときには、容易に国家主義に回収されうるだろう。

またしても分かり切ったことを言うのは気が重いが、言っておかねばならない。

この問題の本質は、アジア諸国の国家主義対日本の国家主義の対立ではない。被害者対加害者、真実対虚偽、正義対不正の対立なのである。

国家主義のレトリックに呑み込まれようとしている日本人たち——とくに若者たちに、私はこう言う。

私たちは加害・虚偽・不正の側に立つて新たな罪を犯してはならない。他者を踏みにして平然と居直ることをよしとする国家の「正史」などに、本来君たち、人、人のものである歴史をゆだねてはならない。その道の先は破局だ。その道は、踏みにじられた側の者が生き続けているかぎり、終わりのない闘争へと通じている。

加害の自覚、被害者への共感、何より真実と正義の追求において、私たちと君たちとは連帯することができる。それが、君たちのほんとうの豊かさ、何よりも平和を保障する唯一の道なのである。

*

*

「新しい歴史教科書をつくる会」の主張そのものには、何の目新しいものもない。こうした主張は日本保守層の有力な一部ですつと以前から繰り返されてきたものだ。しかし、今回の動きには新しい要素

があるとは私は考える。

その要素とは、従来からのウルトラ保守派と、藤岡信勝（東大教授・教育字）が主宰する「自由主義史観研究会」のようなネオ・リベリズムもどきの日本版リヴィジョンニスト（歴史修正主義派）とが合流したことである。

『近現代史』の授業改革」という雑誌の執筆グループとして九五年九月に発足した「自由主義史観研究会」は、①健康なナショナリズム、②リアリズム、③脱イデオロギー、④官僚主義批判の四点を自らの特徴と標榜している。そして、「自国の生存権や国益追求の権利をハッキリ認め」「自国の歴史に誇りをもつ」歴史教育を目指す、と主張する。

彼らの主張のひとつに日露戦争肯定論がある。日露戦争は日本の「国益」にとって必要な「正しい戦争」だったとし、それを勝利に導いた明治国家の指導者たちを賛美するものだ。この戦争を契機に朝鮮は日本に植民地化されたのだが、朝鮮人の視点は彼らの眼中にない。日本がやらなければロシアが朝鮮を勢力圏にしただろう、だから日本のやったことは不可避だったでなく正しかった、というのである。

この論法に、私たち朝鮮人は飽き飽きしている。お前の家に強盗が入ったのは、そうしなければ他により悪い強盗（誰がそれを知る？）が入ったに違いないからだ、だから有り難く思え、ということだ。そして日本人に向かっては、強盗を働いて家を大きくした先祖をもっと誇りにしよう、と呼びかけているのである。後はいちいち書き上げるにたえない。彼らの「史観」に貫かれているのは徹底的な他者の否定であり、猥雑きわまる自己中心主義である。それは帝国主義者・植民者のメンタリティーそのものだ。

隣人から奪い、隣人を殺す、そのことを肯定・賛美することによって成り立つ「健康なナショナリズム

ム」とは何なのか。そんなもののどこが「健康」なのか。その内実は、「国益」幻想を基調とする典型的な国家主義である。「脱イデオロギー」が聞いて呆れる。

こうした国家主義イデオロギーが「正史」となって、多くの日本人がそれを受け容れるとき、日本社会に私たちが在日朝鮮人が生きていく空間はなくなる。そして、そんな「正史」は私たちは到底受け入れられないと主張したとき、彼らの口からは長い間喉に引っかかっていた台詞が飛び出してくるだろう。それは今までも私たちが折りに触れて耳にしたあの台詞だ。——「ここは日本だ。いやなら出ていけ」

当初は価値中立的な姿勢を装っていた「自由主義史観研究会」の化けの皮は、ウルトラ保守派と完全に野合して「新しい歴史教科書をつくる会」結成に至ったことにより、今ではすっかり剥け落ちた。

それにもかかわらずというべきか、それだからこそというべきか、藤岡信勝はテレビ等のマスコミや『諸君』『SAPIO』等の雑誌に頻繁に登場し、あたかも「時の人」のようにもてはやされている。「自由主義史観研究会」による『教科書が教えない歴史』なる書物は、発行元の広告によれば今年初めの時点で四十万部売れたという。同書の続刊をはじめ、類書の刊行が相次いでおり、ひとつのブームと呼びうる事態が現出している。小林よしのりもこのブームに合流し、自分の描く漫画でだけではなく、テレビなどにもしばしば登場して暴言を繰り返している。

産経新聞（96年12月3日）は「新しい歴史教科書をつくる会」の発足を、こともあろうに一面トップで伝えた。さらに同紙（96年12月29日）は、中学歴史教科書が「従軍慰安婦」に関する記述を削除しなかったという同紙のアンケート調査結果を、これも一面トップと社会面トップで報じ、「従軍慰安婦」「南京事件」など際立つた偏向記述は改められず、子供たちは依然、『反日教科書』による学習を強いられることになる」と刺激的な表現で国家主義を煽りたてている。日本の主要日刊新聞の一紙が事実上、ウル

トラ保守派とリヴィジヨニストとの同盟の機関誌の役割を果たしているのだ。

こうして、自分自身の目で事実を見つめ、自分自身の頭で判断を下すことのできない日本の人々——とくに、決して無視できない数の若い教師や学生に、彼らの影響が浸透している。

昨年十二月十九日には、岡山県議会が「慰安婦」と「三光作戦」関連の記述を教科書から削除するよう求める政府への陳情書を採択した。

加えて、教科書の版元である出版社に右翼団体が執拗ないやがらせを重ねているという、憂慮にたえない消息も聞こえてくる。

こんなのは一過性のブームにすぎない、という見方がある。そうだろうか？

たしかに大衆は飽きっぽい。商業マスコミは売れるネタを求めて絶えず視線を動かしていく。この騒ぎも遅かれ早かれ過ぎていくかもしれない。しかし、彼らが撒き散らす偏見と虚偽にみちた言説が日本の大衆のなかに澱のように積もり、こびりついて、不景気や失業、朝鮮半島情勢の緊張、日中両国間の摩擦激化、その他何らかの条件の下で、取り返しのつかない排外主義の狂風となって噴出するかもしれない。

そんなことはついに起こらないかもしれないが、明日起こるかもしれないのである。

彼らの説は学問的には取るに足りないものだ、相手にするだけ消耗だ、という意見を述べる識者も多い。実際、私もそう思う。

たとえば、彼らが「南京大虐殺」の犠牲者数を穿きくするのは、侵略の歴史を細部にわたって明らかにしようという真理への情熱からではない。彼らが「日本軍人による」「慰安婦」の「強制連行」の有無を

執拗に言い立てているのは、日本軍の性奴隷制度のメカニズムを説明しようとする使命感からではない。ましてや、犠牲者への同情や共感など、かれらには微塵にもない。一時が万事である。

彼らは学問上の論戦を挑んでいるのではなく、学問的理性そのものに挑んでいるのである。彼らの関心時は初めから、枝葉末節の挙げ足取りをすることによって歪んだ自己愛を満足させることであり、つまるところ日本国家と癒着した自己を何が何でも肯定することではない。彼らのあらゆる議論は、そうした動機に裏打ちされている。本質において、彼らは他者を蔑視しており、対話を拒否しているのである。

そんな彼らを相手にすることに意味があるだろうか。

意味はない、と私も思う。しかし、(ヴィダル・ナケの言い方を借りるなら)彼らと対話することに意味はないが、彼らについて語ることは大いに意味がある。いや、それは義務ですらあると私は信じる。

いま、私たちがはつきりと「否」と声を上げることが必要なのだ。どんなにうんざりさせられようとも、繰り返して「否」と言わねばならない。「もう一回言っておけばよかったと後で後悔しないように」(ベルトルト・ブレヒト)。

私たちが在日朝鮮人は、もはや黙っているべきではない。自分自身の尊厳を守るために、私たちの兄弟姉妹、子供たちを守るために、そして私たちの愛すべき日本人の友人・知人たちを国家主義の危険から救うためにも。

一九九七年一月十七日

※文中の「朝鮮人」は、韓国籍・朝鮮籍・日本籍の別を超えた民族の総称として用いました。

「自由主義史観研究会」「新しい歴史教科書をつくる会」 等の動きを憂慮する在日朝鮮人のアピール

(1) 私たちは「朝鮮人」という呼称を、韓国籍・朝鮮籍・日本籍その他国籍の枠を越えた、朝鮮民族の総称として用いる。

(2) 私たちは、「呼びかけ人」(下記)と憂慮をともにする在日朝鮮人諸個人による、自発的かつ自律的なネットワークを形成する。

アピール

昨年十二月二日、小林よしのり、西尾幹二、藤岡信勝ら九名の呼びかけで、言論界と経済界を中心に七十八名の賛同者を集め、「新しい歴史教科書をつくる会」(以下は「つくる会」と略称)が結成された。彼らは検定を通過した七社の中学歴史教科書の近現代史記述が「自己悪逆史観」に貫かれていると決めつけ、具体的には「従軍慰安婦」に関する記述の削除を要求しつつ、「自国の正史」を回復せよと主張している。こうした動きは決して目新しいものではないが、日本社会にさらに広がる気配を見せている。

私たちは、こうした動きを心から憂慮する。

私たちは問いたい。彼らはなぜ「従軍慰安婦」問題の本質を、自分たちが勝手に定義した「強制連行」の有無の問題にすりかえようとするのか。彼らは「従軍慰安婦」記述の削除を要求する前に、日本軍兵士の性奴隷にされた被害者たちの証言に一度でも耳を傾け、彼女たちの視点から当時を見ようとしたこ

とがあるのだろうか。

彼らは関東大震災で殺された朝鮮人がいたことを認めながら、ごく少数の朝鮮人の命を救った日本人警察署長の固有名を挙げて、ヒューマンな「美談」に仕立てようとする（『教科書が教えない歴史』）。

「ヒューマン」なるものへの信頼が決定的に崩壊したこの事件に向かい合うべきときに、なぜ一日本人の「美談」が強調されなければならないのか。

彼らは日清・日露戦争をアジア侵略戦争と位置づけることに異を唱えているが、これらの戦争が朝鮮を戦場にして戦われたこと、その結果が日本による台湾や朝鮮などの植民地支配につながったことをなぜ無視するのだろうか。

「従軍慰安婦」にせよ、戦争と植民地支配にせよ、彼らは「どの国も同じようなことをしたではないか」と開き直り、なんとかして道徳的免罪符を得ようとする。しかし、かりに他国が「同じようなことをした」として、他がやっているから自分もやってもいいことになるのだろうか。幼稚で安易な自己肯定のためのレトリックと言うほかない。

私たちの見るところ、「つくる会」等に同調している人々の歴史観には、男性中心主義・国益至上主義・自国民中心主義・英雄主義のイデオロギーが明確に現われている。そこには、自己に都合の悪い記憶をすべて否認することによって「汚れなき」国民の記憶を鑄造し、栄光の国史Ⅱ「正史」をうちたてたいと欲するナルシスティックな心理が働いている。

在日朝鮮人である私たちは、たんに歴史の被害者という立場からこうした動きを告発するという役割に満足しない。「正史」の捏造によって抹殺される過去の記憶を受け継ぎ、それを客観化、普遍化する努力によって開かれた歴史を築いていきたいのである。

私たちは「つくる会」等の動きを、一部の特殊な人々のものと軽視することはできない。現に彼らの著作は書店に高く積み上げられて無視できない多くの読者を獲得しており、一部マスコミは彼らの主張を執拗に代弁し続けることで世論を誘導しようとしている。最近では日本社会のいたるところから、「従軍慰安婦」という制度は存在しなかった」などという声までが聞こえてくる。「従軍慰安婦」記述の削除を求める決議を採択する地方議会も現われた。こうした流れは、このまま放置すれば危険な排外主義に転化しかねないものである。日本社会はそれをくい止めることができるのだろうか。私たちは彼らの言説や行動そのものよりも、現在の日本社会の中にそれを産み出し受容していく素地があることに強い危機感を覚えるのである。

すでに言われ尽くしたことであっても、それが真実であるならば、繰り返し言わねばならない。私たちにとって、日本の近現代史はアジア侵略と植民地支配の歴史である。真実を隠蔽・歪曲しようとする人々の「歴史に対する暴力」を許さない力強い声が、日本社会に広汎に喚起されることを切望するものである。

一九九七年一月二十日

〔呼びかけ人〕

高成鳳（コ・ソンボン 大学教員）

金富子（キム・プジャ）

金朋央（キム・プンアン 学生）

金 栄（キム・ヨン フリーライター）

徐京植（ソ・キョンシク 作家）

石純姫（ソク・スニ 大学教員）

宋連玉（ソン・ヨノク 大学教員）

慎蒼健（シン・チャンゴン 大学教員）

梁澄子（ヤン・チョンジャ）

趙景遼（チョ・キョンドル 大学教員）

〔連絡先〕 FAX 03-5998-6160

〈韓国市民からの抗議〉

日本の国会議員、学者達および極右勢力の

日本教科書「慰安婦」内容削除活動は、即時中断されねばならない!!

最近、日本国内での全般的な保守・右翼化とともに政治家と学者達を中心に教科書に記述された日本軍「慰安婦」問題と関連した内容を削除させようとする動きが激しくなっている。

「従軍慰安婦は強制ではなかった、商行為だった」という妄言で有名な奥野誠亮自民党議員が、昨年十二月二十三日、今年から中学校教科書で記載される日本軍「慰安婦」内容を取り除くように文部省に要請し、また新年になると自民党を中心とした極右派達の反歴史的な行動が継続されている。

このような動きに対して私達は、深刻な憂慮を表明するとともに、このような行動を即時中断することを強く要請する。

第二次世界大戦が終結して五十一年間、日本政府は、日本軍「慰安婦」犯罪を隠蔽して法的責任を回避することだけに汲々としてきた。八〇年代後半に入り日本軍「慰安婦」問題が国際世論化した時も、正しく解決することより犯罪を否認し隠すことだけに力を注いだ。そうした被害者および関連民間団体の要求と激しい国際世論に押されて、しかたなく強制的に日本軍「慰安婦」制度が執行されたことを認めて、今年から採用される教科書に非常に部分的にうわべだけではあるが「慰安婦」内容を収録するよう処置をした。

これは被害者と民間団体と良識ある日本人、世界の平和を願う人々の運動の力によって築かれたほんの少しの成果である。また、日本の歴史においても多少の前進であった。

しかし、このような苦労の中で築き上げた歴史の進展を逆に戻そうとする教科書削除行動は、絶対見過ごしてはならないものである。これは、また日本の若い世代に真実よりも嘘と偽造された歴史で教育しようとするものである。

国会議員と学者達が一国の政治と歴史を正しく指導するよりもむしろ歴史を逆戻りさせようとする無謀な動きは日本だけでなく世界から糾弾されてしかるべきだ。

私達は、日本教科書の「慰安婦」内容を削除しようとする政治家と学者および民間人のこのような運動について、即時の中断をもう一度強く要請する。あわせて日本が過去にアジアと世界に及ぼした非人道的な戦争犯罪を正しく教育すること、二度とこのような犯罪を犯さないように、ほんとの教育を施行するようにむしろ政府が監視する活動を行うことを要請する。それが、アジアに対してしてかした日本の犯罪を償い、アジアから信頼される第一歩となるだろう。

一九九七年一月三十日 強制連行された日本軍「慰安婦」問題解決のための市民連帯（韓国・ソウル）

右派勢力の教科書攻撃に関する略年表

《この略年表について》 今回の右派勢力による教科書攻撃は、当然のことながら、多くの人々を憤激させている。しかしこの動きは、けつして突然浮上したのではない。だから、この危険な動きをはばむためには、右派勢力の動きをおおまかにでもとらえる必要がある。私はそう考えてこの略年表をまとめた。記載したいことはなお多いのだが、右派勢力の狙いと動きの主体と経過を理解することに力点を置いているので、閣僚・元閣僚のくりかえされる暴言に対するアジア太平洋諸国の反応や各地の現場で反撃をつづけている仲間たちの活動などは十分反映していない。その点をあらかじめお断りしておきたい。

今回の右派勢力のキャンペーンでは、『産経』がいわば広報紙の役割を果たしている。それゆえ本略年表は同紙を参照した部分が多い。しかし、右派勢力の文書については、できるだけ第一次資料にあたり正確を期した。その収集については、全国の仲間たちの惜しみない協力をえた。それは、どうしても記しておかねばならないことだ。仲間たちに深い謝意を表したい。

戦後五十二年の今なお、私たちが民衆の立場で戦争責任・戦後責任をとっていないということが、ことの根底にあると、私は思う。だから問題は、かつての天皇制国家と形を少し変えてつづいてきた戦後天皇制国家の責任回避を許している私たちのありようそのものだ。私の作業は、そのような自覚に基づいている。

一九九七年二月四日 井上澄夫（フリージャーナリスト）

◎右派勢力がこれまでの「教科書問題」をどうとらえているかについては、西尾幹二・藤岡信勝著『国民の油断・歴史教科書が危ない！』（PHP研究所 九六年刊）の巻末の資料（略年表「戦後の教科書をめぐる動き」）がとりあえず参考になる。

一九九四年

12・1 自民党の国会議員が「戦争謝罪国会決議」（戦後五十年国会決議）に反対して「終戦五十周年国会議員連盟」（会長・奥野誠亮元法相）を結成。

〔九五年一月三十一日付「活動方針」の一部〕「とくに、戦後、占領政策や左翼勢力の跳梁によってもたらされた、一方的なわが国に対する断罪と自虐的な歴史認識を見直し、公正な史実の検証に基づいて歴史の流れを解明し、日本および日本人の名誉と誇りの回復を期すべきである」

一九九五年

2・21 新進党議員が「戦争謝罪国会決議」に反対して「正しい歴史を伝える国会議員連盟」（会長・小沢辰男）を結成（以下「正しい歴史・議連」と略す）。

〔同議連設立趣意書の一部〕「戦後五十年。私たちのなすべきことは、先の大戦に倒れた将兵と戦没者を慰霊することと、戦傷者並びに遺家族を慰藉することが第一でありましょう。そして、謙虚な反省と誇りの下に、いまだ解明されていないわが国の戦争の歴史を繙き、戦争の原因を突き止めることで再び戦争が起きないよう英知をしほることが求められています。そしてこれらの歴史を後世が的確に審判できるように、必要な作業に着手する第一歩として本年を迎えるべきではないでしょうか。十七世紀に着手された『大日本史』が二十世紀初頭に完成を見たように、二十一世紀の子孫たちにわが国近代の歴史検証の端緒をつけるこそが、今日を生きる私たちの責任であると考えます」

6・9 衆議院が「歴史を教訓に平和への決意を新たにする決議」（戦後五十年国会決議）を可決。

7月 「自由主義史観研究会」が発足。代表は藤岡信勝東大教育学部教授。同研究会への「おさそい」にはこう

ある——私たちは、本誌『近現代史』の授業改革を支え、その内容を創り出す組織的母体（執筆者グループ）として、このほど、「自由主義史観」研究会を発足させました。この会は、イデオロギーにとらわれない自由な立場からの大胆な歴史の見直しと、歴史授業の改革を、多様な形で進めることを目的としています」（『近現代史』の授業改革は明治図書発行）。

藤岡の創刊の辞の一部に「近代日本が行った戦争の評価については、日本だけを悪者にする『東京裁判史観』も、日本は少しも悪くなかったとする『大東亜戦争肯定史観』も、ともに一面的です。日本がとる政策によってあの戦争は避けることができたのではないかという観点から、戦争回避の可能性と現実性を歴史の具体的脈絡の中で追究する必要があります。右のような『近現代史』へのアプローチを『自由主義史観』とよぶことにします」。

8・15 「戦後五十年に当たつての首相談話」（村山富市首相）

〔備考〕九四年秋から九五年夏までに地方議会で採択された「戦没者追悼感謝決議（侵略・英霊賛美決議）」は、県議会で二十六、市町村議会で九十（推定）。同決議推進の議会への陳情攻勢がなされたのは、「日本を守る国民会議」と「英霊にこたえる会」が展開した全国縦断キャラバンの働きかけによる。これは「戦争謝罪国会決議阻止五百万人署名」と車の両輪の關係で推進された。今回の「教科書問題」をめぐる地方議会の動きも同じパターンでつくられている。ふたつの国会議員連盟と諸右翼団体・右派論客の同盟が、各地の「章の根保守」勢力を基盤に形成されているが、今回のキャンペーンにおいては、それに加え、藤岡信勝東大教授が新手の右派知識人として前面に出て現場の教師をリードしているほか、作家・エッセイスト・漫画家などマスメディアで有力な人々をフルに活用しているのが特徴。

一九九六年

2・6 国連人権委員会の「女性に対する暴力特別報告書」の報告（クマラスワミ報告）がまとまり、この日明らかになる。第二次大戦中の旧日本軍の行為を「人道に対する罪」と断定、元従軍慰安婦への国家としての補償と加害者の処罰など六項目を「勧告」として列記。

4・9 「終戦五十周年国会議員連盟」が名称を変更し「明るい日本・国会議員連盟」の結成趣意書をつくる。ただし、組織の結成は、九六年六月四日（以下、「明るい日本・議連」と略す）会長・奥野誠亮、事務局長・板垣正（日本遺族会顧問）、顧問・原田憲、藤尾正行、武藤嘉文、山中貞則、林田悠紀夫（九六年六月三日、正式発足前日現在の加盟議員数）衆議院・六十四人、参議院・五十二人、ただし、九六年秋の衆院選でメンバーに変更がある。たとえば、顧問の原田憲は落選、同顧問の藤尾正行（元文相）は引退。

「同議連結成趣意書の一部」「開国以来、国民の艱難辛苦と幾多先人の献身と犠牲によって、その存立が守り抜かれてきたわが国の歴史に対して、侵略国家として罪悪視する自虐的な歴史認識や、卑屈な謝罪外交に対しては、決して同調することはできない。（中略）安易に他国の見解に迎合し追随することは慎むべきである」。

4・23 自民党の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（小淵恵三会長）と、新進党の「靖国神社参拝議

員連盟」（渡部恒三会長）の国会議員が、春季例大祭中の靖国神社にそろって参拝。自民党の八十八人（ほかに秘書などの代理参拝が五十四人）、新進党三十二人（同二十一人）の計百二十人で、現職閣僚では中川秀直科学技術庁長官が参拝。倉田寛之自治相と岡部三郎北海道・沖縄開発庁長官は、二十二日に参拝。自民党の板垣正参院議員（日本遺族会顧問）が、同党総務会で、旧日本軍の従軍慰安婦問題が高校教科書などで取り上げられていることについて「未成年の女性を強制的に慰安婦として働かせたと一面的に記

述するなど、歴史の真実に基づいたものでなくても歴史的事実として取り上げているものがある。検定のあり方も含め、もつと真剣に教科書を扱ってほしい」と述べる。

6・4 自民党の国会議員が「明るい日本・議連」を結成（衆参両院で百十六人が加盟）。総会後の記者会見で、

奥野誠亮会長が「従軍記者や従軍看護婦はいたが、『従軍』慰安婦はいない。商行為に参加した人たちだ。戦地で交通の便を（国や軍が）図つただろうが、強制連行はなかった」とのべ、高校や中学校の教科書の記述を批判。事務局長の板垣正参院議員も「性的虐待のイメージを植え込む教科書のあり方おかしい」と発言。

6・27 九七年春から使用される中学校社会科教科書の検定結果が公表され、七冊すべての教科書に「従軍慰安婦」に関する記述が登場。

7・2 自民党の総務会で現行の教科書検定のあり方への批判が右派議員から出る。

7・16 自民党はこの日の総務会で、現行の教科書検定に関して文部省から聴取したが、検定のあり方への批判が出たため、党文教制度調査内に「教科書検定問題に関する検討小委員会」（仮称）を設置することを決める。

7・20 自由主義史観研究会（代表・藤岡信勝東大教授）が中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除要求など、歴史教科書批判を全国規模で展開していくことを決める。

7・26 自民党が現行の教科書検定の見直し問題で、九月末をめどに党の見直し案をまとめる方針を固める。

7・28 橋本首相が「総理として」靖国神社に参拝。八五年夏「公式参拝」をした中曽根康弘以来の現職首相の参拝。

8・10 自由主義史観研究会の第一回全国大会が、この日を含め二日間の日程で開かれる（山形・蔵王温泉）。全

国の教師ら約百人が参加。

8・14 「女性のためのアジア平和国民基金」が元従軍慰安婦に償い金の支給手続きを始めるのにあわせ、政府が元慰安婦に渡す橋本首相の手紙を公表。その一部Ⅱ「いわゆる従軍慰安婦問題は、当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた問題でございました」。

8・15 東京九段の「第十回戦没者追悼中央国民集会」での堀江正夫「英霊にこたえる会」会長の発言Ⅱ「新聞で、慰安婦への総理のわび状を見たとき、りつ然たる思いにかられたのは、私だけではないでしょう。戦場に荒稼ぎに行った婦人に対する金が二百万円。こんなことでいいんでしょうか」。

9・1 右派の教育研究団体「日本教師会」（会長・若井勲夫・京都文教短大助教授）が、この日までに中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除を求める決議を採択、決議文を文部省に提出。

9・5 参院自民党が都内のホテルで開かれていた政策研究会に藤岡信勝東大教授を講師として招き、歴史教科書の検定問題などについて討議。

9・10 右派の大学教授や歴史研究者の組織「昭和史研究所」（代表・中村繁独協大教授）が自民党本部に塩川正十郎総務会長を訪ね、中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除などを文部省に求めるよう要請。

9・13 「明るい日本・議連」（会長・奥野誠亮）が總會を開き、中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除に向けて、現行の教科書検定の見直しを求める決議を全会一致で採択。

9・17 「明るい日本・議連」が、九月十三日の議連總會の決議に沿って、中学校教科書の「従軍慰安婦」記述を削除するよう、奥田幹生文相に要請。

9・20 この日から一か月かけて「日本を守る国民会議」（議長・熊敏郎）が「従軍慰安婦」記述の削除を求め、北海道から鹿児島まで全国縦断キャラバンを展開。《章の根保守》勢力を動員して地方議会（都道府県・

市町村)に陳情を提出させるため。(このキャラバンで各地の右派団体に「中学校歴史教科書の訂正を求める陳情」と「夫婦別姓を認める民法改正」に反対を求める陳情」の案(ひな型)を配布したと見られる。各地で同年の九月・十二月議会に同種陳情が提出される。

9・24 岡山県教科書定正協議会が首相官邸を訪れ、中学校社会科教科書の「反日的・自虐的な記述の訂正」を求める陳情書を提出。

9・25 自民党がこの日までに「高校教科書の検定廃止」を衆院選の公約原案に盛り込む。

9・26 自民党は選挙公約の原案に盛り込まれた「高校教科書の検定廃止」を削除し新たに「高校および義務教育段階での教科書のあり方を検討する」と明記する方針を固める。右派議員が要望していた「従軍慰安婦」の記述の削除・訂正や教科書検定の正常化」は見送り。

●東京・九段北の靖国会館で「教科書の訂正を求める緊急国民集会」(昭和史研究所)などが主催)が開かれ約三百人が参加、集会後国会周辺や霞が関をデモ。

●自衛隊OBで組織する「日本郷友連盟」が、この日までに中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除を求める要請文を奥田文相に提出(三光作戦)や「南京事件の誇大な犠牲者数」の削除も求める。

9・27 同日から「産経」紙上でシリーズ「教科書が歪めた歴史」が始まり、十月十日まで十四回続く。筆者は自由主義史観研究会会員(第一回)「従軍慰安婦・虚偽の記述が独り歩き」筆者・藤岡信勝東大教授、最終回「大正期の政治・共産党の『理想』一方的に」筆者・赤野達哉大阪市立中央高校教諭。

9・29 自民党はこの日までに「靖国神社への公式参拝の実現」を総選挙の公約に盛り込む方針を固める。

9・30 自民党が靖国神社参拝問題で総選挙の公約案に明記していた「公式参拝の実現」に関する文言を「実現を期す」に修正。

参院自民党が政策審議会に教科書検定問題を議論する「教育問題に関するプロジェクトチーム」（座長・井上裕元文相）を設置。

櫻井よしこ（ジャーナリスト）が横浜市教育委員会の教育課題研修会で講演（教職員約二百人が参加）。発言の一部Ⅱ「日本はロシアを恐れるあまり、朝鮮半島に行き中国に行った。でも朝鮮半島ではフランスがインドシナを支配したような、イギリスがインドを支配したようなやり方ではなかった。日本人としては朝鮮半島の人を日本人並みに引き上げようとしたということもある」「あの慰安婦というのは数からみれば確かに朝鮮の人も多かったが、一番多く慰安婦として働いたのは、日本人の女性なんですよ。東北の貧しい農村の娘さんが親に売られていったのが、あの時代の価値観だった。それがいいとか悪いとかは、まあなんて人権無視でしょうとか、今になってみれば何でも言えますよ。あの時代はいわゆる売春宿というものがあつて、これは世間にも認められていた。今振り返つて悪いと言つてもそれはしょうがないね、ということ教えるのが教育だろうと思う」（以上は講演から。以下は聴衆との質疑応答から）「今の日本の歴史教育というのは、これでもかこれでもかと苦しめながら日本を悪く書いている」「とどのつまり、当時の慰安婦問題というのは、それなりのビジネスとしてやっていたと言える」

橋本首相は当初、同日を「いとこの戦死公報が届いた記念の日」として靖国神社参拝を希望していたが見送る。(同年七月末の「総理としての」靖国参拝に中国が激しく抗議したため、在任中の参拝はしないと先に表明していた)

自民党の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（小淵恵三会長、二百九人）と、新進党の「靖国神社参拝議員連盟」（渡部恒三会長、七十一人）の国会議員が、同日朝、秋季例大祭中の靖国神社にそろって参拝した。参拝したのは、参院議員八人（自民六、新進二）と、前代議士と参院議員の秘書ら代理

三十八人。閣僚の参拝はなし。

10・27

【衆議院選挙】

11・4

『産経』が中国の歴史教科書を非難するシリーズ「中国の教科書が教える歴史」を開始（四日から十日まで連日七回）。

11・7

【第二次橋本内閣発足】新文相・小杉隆（旧渡辺派、東京五区）。

11・13

参院自民党の「教育問題に関するプロジェクトチーム」が、現行の教科書検定制を見直すため、文部省から検定の経緯を聴取することを決める。

11・22

同日付『産経』のインタビュー「新閣僚に聞く」で、小杉隆文相が「従軍慰安婦」の記述が掲載される中学校教科書について「専門家が議論した上で記述することになったと認識しており、これを一方的に削除するのは問題と思う。慎重な審議を経た結論は尊重しなければならない」とのべる。

11・28

自民党外交調査会と外交部会の合同会議が党本部で開かれ、海外から元首など要人が来日した際、靖国神社に参拝してもらうことを早期に実現させるべきとの考えで一致。

12・2

藤岡信勝東大教授（自由主義史観研究会代表）、西尾幹二（評論家）、阿川佐和子（エッセイスト）ら九人が呼びかけた「新しい歴史教科書をつくる会」が発足。記者会見で現行教科書を「日本の近現代史全体を犯罪の歴史と断罪して筆を進めている」と批判し、次世代に自信をもって伝えられる歴史教科書の作成提供をめざすほか、文相に「従軍慰安婦」記述の削除勧告を要求するなどの活動をおこなうと発表。

【呼びかけ人】藤岡信勝（東大教授・自由主義史観研究会代表）、西尾幹二（評論家）、阿川佐和子（エッセイスト）、小林よしのり（漫画家）、坂本多加雄（学習院大教授）、高橋史朗（明星大教授）、林真理子（作家）、深田祐介（作家）、山本夏彦（評論家）。

●この日までに、「かながわ人権フォーラム」(会長・弓削達前フェリス女学院学長)が、横浜市教育局委員会对し、十月三日の櫻井発言を「国際問題にかかわる重大な事柄」と批判し、反対の立場の学者による講演を要請。

12・3

新進党の「正しい歴史・議連」が総会を開き、教科書問題に関する対外的な声明を臨時国会中に発表する、政府・与党の歴史認識の姿勢を正す、正しい歴史認識を伝えるよう文部省に働きかける、などの方針を決める。

●米国司法省が七三一部隊など第二次世界大戦中の戦争犯罪に関係した日本の元軍人十六人を米国人国禁止処分にすることを決める。

12・4

この日、兵庫県播磨町教育委員会が八日午後に予定されていた櫻井よしこの講演会を中止すると櫻井側に伝えてきたことが判明。

12・11

参院予算委員会で自民党の板垣正議員(「明るい日本・議連」事務局長、日本遺族会・顧問)に中学校教科書の「従軍慰安婦」記述などについての見解を求められた小杉文相は、「専門家による教科用図書検定調査審議会の検定に基づいたものであり、妥当と考える。客観的事情に変化がない限り、教科書発行者に対する訂正申請の勧告はおこなう考えがない」とのべる。

12・19

岡山県議会の自民党県議団が単独で、右派団体連合「岡山県教科書是正協議会」が提出した陳情「今後採択される中学校教科書から『従軍慰安婦』並びに『三光作戦』等の記述の削除を求める意見書提出について」の趣旨採択を強行。

〔陳情を提出した県教科書是正協議会(江見祐道会長)の構成団体＝県叙勲者の会、県PTA役員有志、不二歌道会県支部、岡山国民文化懇談会、県傷痍軍人会、日本世論の会県支部、県郷友軍恩連盟、県ハ

ルビン会、内外ニュース岡山懇談会、生長の家有志、県憲友会、県工華会、十一クラブ、直毘塾、平和日本を守る県民会議、県教育振興会、県護国神社、平成ビジョンの会、県海交会、祖国日本の会、県道族連盟、神道政治連盟、美作地区教育振興会、笠井山大仏護立会、県英霊にこたえる会、モラロジー岡山東部支部、県中飛会、県隊友会有志、県神社庁、県参陵会、県ビルマ会、県金鶏会、津山防衛協会、岡山子供を守る会

●横浜弁護士会が創設した「人権賞」の第一回授賞団体に選ばれた、在日外国人労働者の人権問題に取り組んでいる「カラバオの会」(渡辺英俊代表)が、十月三日に問題発言をおこなったジャーナリスト櫻井よしこが選考委員に入っていることを理由に受賞を辞退。

12・20 自民党の「明るい日本・議連」が党本部で教育問題に関する小委員会を開き、「学校教育用図書検定基準」にある、中国、韓国などに配慮することを明記した「近隣諸国条項」に問題があるという認識で一致。政府や党執行部に同条項の削除を働きかける方針を決める。

●新進党の「正しい歴史・議連」が国会内で記者会見をおこない、中学校教科書の「従軍慰安婦」などの記述の訂正を求める声明を発表。

12・22 同日付『産経』の社説(主張)「何が悪い桜井さんの『認識』」。

12・23 自民党総務会で森喜朗総務会長は、「従軍慰安婦」の記述や「近隣諸国条項」に対する批判について、「近隣諸国条項は、当時政府・与党が一致して決めたことであり、頭越しの決定ではない。現実問題としては教科書の印刷は始まっており、止めることはできない。検定基準にのっとっている限りは、執筆者の考えが優先される」とのべる。

12・26 右派団体「昭和史研究所」の会員らが文部省に小杉文相を訪ね、「従軍慰安婦」記述の削除を要請。同文

相は「検定は基準に沿っておこなわれている。(昭和史研究所とは) 認識の違いがあり、削除・訂正を教科書会社に求める考えはない」とのべる。

一九九七年

1・1 同日付『産経』の「年頭の主張」―「日本史には、百二十五代にわたって平和裡に存続した天皇の存在がある。連綿とした文化の継承性を象徴する。この歴史は誇りとすべきであり、守らなければならない」

1・4 橋本龍太郎首相が伊勢神宮に参拝。

●「明るい日本・議連」(自民党)と「正しい歴史・議連」(新進党)が、中学校教科書の「従軍慰安婦」記述の削除や検定制度的見直しに向けて、連携する方針を固める(同日現在、両議連に所属する議員は衆参両院で百七十七人)。

1・7 同日付『産経』によれば、同紙の六日までの調べで、中学校教科書から「従軍慰安婦」記述の削除を求める陳情を趣旨採択したり、政府への意見書を採択したのは、九六年暮れまでに十議会にのぼっている。
〔都道府県議会〕岡山県【市町村議会】青森県黒石市、金木町、柏村、山形県南陽市、新潟県栃尾市、岡山県瀬戸町、大原町、北房町京都府加茂町。また陳情が継続審議などになっているのは、六議会である〔都道府県議会〕新潟、福井、熊本、鹿児島各県【市町村議会】青森県中里町、長崎県琴海町。
テレビ朝日【田原総一郎の「異議あり」で小林よしのり等を囲み討論。

1・11 自民党の江藤隆美代議士(元総務庁長官、宮崎二区選出)が北九州市内でおこなった講演で、次のように発言。教科書の歴史記述に関連し「韓国併合」について

「国と国が条約を結んで決めたことの、どこが侵略なのか。言葉は悪いかも知れないが、町村合併とい

かほどの差があるのか」。中学校の教科書に従軍慰安婦などの記述が盛り込まれることについて「侵略とは武力による占領、弾圧、搾取だ。いったい日本がどこを侵略したというのか。白人世界がやった植民地支配とは違うのに、なぜ教科書に載せなければならないのか」(1・14付「朝日」)

さらに江藤は同日夕、共同通信に対し「町村合併ですら血で血を洗うような抗争がある。一つの国がなくなり歴史が途絶える時、国を挙げて賛成するわけがない。しかし、当時の韓国政府はそういう選択をした」とのべる。(江藤は第二次村山連立政権の総務庁長官だった九五年十月十一日、「韓国併合」について「当時は国が弱いとやられた時代だったんだから、やむをえないことだ」など日本による朝鮮の植民地化を正当化する発言をして、辞任を余儀なくされた)

1・14
自民党の総務会で板垣正参院議員が九六年秋総選挙の公約に盛り込まれた「靖国公式参拝の実現」が九七年の党運動方針案で見送られたことを批判、板野重信参院議員会長などが教科書問題など歴史教育の是正への対応について執行部を批判。

1・19
右派弁護士グループが「自虐的・反日的な教科書を使った授業は公平・公正な教育を受ける子どもたちの教育権を侵害する」として、国、教科書会社を相手取り、検定教科書の履修義務不存在の確認を求める訴訟を東京地裁に起こすことを決める。

●東京・渋谷区で『従軍』慰安婦と教科書問題をテーマに藤岡信勝東大教授らをパネリストにパネルディスカッション(主催・東京レディスフォーラム)が開かれ、約四百人が参加。

1・21
「新しい歴史教科書をつくる会」の呼びかけ人代表七人が文部省で小杉文相と会談。教育課程審議会で歴史教育の見直しを加える、中学校教科書の「従軍慰安婦」関連記述を大臣勧告で削除する、の二点を申し入れ。文相は後者については拒否、前者について「ヒアリングなどをおこない、真剣に審議するよう

事務当局に指示する」とのべる。(この時点で「新しい歴史教科書をつくる会」の呼びかけ人は二十人になり、賛同者は百人を超える)

「新しい歴史教科書をつくる会」の新たな呼びかけ人十一名

井沢元彦(作家)、伊藤隆(東大名背教授)、大月隆寛(国立歴史民俗博物館助教授)、大宅映子(評論家)、賀来龍三郎(キヤノン代表取締役)、川嶋廣守(プロ野球セリーグ会長)、佐藤愛子(作家)、遠山一行(音楽評論家)、^{なま}澤川栄太(作家・新松下村塾塾長)、芳賀徹(国際日本文化研究センター教授)、山本卓真(富士通会長)(最初の呼びかけ人九名については、本年表の九六年十二月二日の項参照)

同日付『朝日』夕刊によれば、四月から使われる中学校社会科教科書の執筆者や出版社役員の自宅、出版社などに、執筆者や役員の自宅の写真コピーを同封した脅迫状が送られていたことがわかった。文書は教科書の内容が偏向していると批判する内容で、「赤報隊精神も想起しましょう」などの表現もあった。文書が届いた出版社は、教科書を発行している七社のうち東京書籍、大阪書籍、日本書籍、教育出版の四社で、九六年十二月上旬から中旬にかけて届いたという。「赤報隊」は、一連の朝日新聞製筆事件後、通信社に犯行声明を郵送している。

●同日夕、梶山静六官房長官が首相官邸で元従軍慰安婦問題に関連して「中国に行つて来た中山太郎さん(元外相)」と今日、慰安婦の問題などについて電話で話した。今、声高に言っている人たちは、その時代背景について習っているわけではない。当時、公娼(こうしょう)制度があったことを知らない。私たちより上の世代は従軍慰安婦といつてもそれほど驚かない。(公娼になった人は)多くは貧しくてカネのためだったんだろう。戦地に行くとか給金がもらえるということもあったし、最後には徴用とか徴発があったんだ。背景も知らずに、そういうことだけを教えるのはどう思うか」などのべる(こ

の発言内容は1・25付『朝日』に。同日付『産経』では「今の人はその当時の社会状況というものを教えられていない。昔は公娼制度というものがあつた。それが、戦地にもそういうものができて、いくらか加給金はずまれた。戦争の後の方に徴発というか、そういうことがあつたかもしれない」となっている。中山元外相は二十四日、梶山長官に「過去の戦争中の出来事を否定するものではないが、元慰安婦問題などを青少年に教えるのは時期尚早であることを理解してほしい」などと電話で語った(1・25付『産経』)。

橋本龍太郎首相は韓国の金泳三大統領との昼食会(大分県別府市)で、前日の梶山発言について、「報道の結果、(大統領と韓国国民が)懸念を持たれたとすれば申し訳ないし、本意ではない」と「陳謝」する。金大統領は「官房長官は内閣のスポークスマン。発言は非常に不幸なタイミングで、(韓国)国民に衝撃を与えた」とのべ、さらに同日の共同記者会見で「日本の一部の政治家が過去に対して韓国国民にとって理解に苦しむ話をよくしている。実際にあつたことは、隠すことも消すこともできない。ありのままの過去を直視したうえで、未来志向的な関係を築いていかなければならない」と不快感を表明。(1・26付『産経』の記事〔署名・榊原智〕は、梶山発言について「官房長官としての立場、首脳会談の直前というタイミングをわきまえなかったのは、軽率とのそしりを免れないが、ある意味では『正論』といえる」と論評)。

●東京の九段会館でシンポジウム「反日・自虐の歴史教科書を如何に正すか」が行なわれ、大原康男國學院大教授、長谷川潤桜丘中学校教諭(大阪府枚方市)、半本茂「教科書を正す親子の会」事務局長らが発言。半本発言「教科書問題では政府も役所も責任をとらない。各地方議会に教科書是正のための請願を出したり、裁判などを行うことで、政府が政策を変更しやすくなる状況を作り上げていく必要がある」。

1・26

岡山市内で藤岡信勝東大教授が講演。タイトル「教科書が教えない歴史」。主催は「岡山キリストの墓屋・教育問題を考える会」。(「原始福音・キリストの墓屋(まぐや)」は、「日本の精神的荒廃を嘆き、大和魂の振起を願う」ことを信条のひとつとする国粹主義的キリスト教派)。

1・27

梶山官房長官が記者会見で開き直る。その発言(二月二十四日の発言が日韓首脳会談で取り上げられたこと)について正當に書いていただければ良いが、(記者の)自分の判断を交えて書かれるのは大変迷惑だ。一部の方々が、日韓関係を悪くしたいという意思があったかわからないが、結果として、そういうものをもくろんだというなら反省をしてほしい(報道機関への不信感の表明)。そのうえで「首脳会談で少しでも不快な思いと、韓国国民に誤解を与えたことは、私の不徳の致すところで、心からおわび申し上げる」(発言の真意について)「日韓にまたがる慰安婦問題を申し上げたのではない。戦争中の時代、貧しいために公娼制度があった。やむを得ず自分の体を売らなくてはならない立場に追い込まれた経済的な弱者がたくさんいた。軍隊が外地に行くにしたがって、そういう方々も進出していった」(教科書の記述について)「慰安婦問題も当然取り上げるべきだ」(発言内容は1・27付『朝日』夕刊)。

●同日、神奈川人権センター(日高六郎理事長)が、一月二十九日に開催される三浦商工会議所(神奈川県)新春経済講演会の講師としてジャーナリストの櫻井よしこが予定されていることに對して、再検討を要請。

●同日付『産経』のコラム「産経抄」Ⅱ「梶山発言は間然するところもないほど正しい」。

1・28

三浦商工会議所は、神奈川人権センターの申し入れと市民からの抗議の電話を「総合的に判断して」、翌日予定されていた櫻井よしこの講演会を中止。

●衆院予算委員会で梶山官房長官が「釈明」Ⅱ「大人げないといえば大人げないが、(発言の)次の日に首

脳会談がおこなわれることをつい失念していた。そのことを橋本龍太郎首相におわびしたし、首相から金泳三・韓国大統領に事情の説明を願ひ、『韓国国民に嫌な思いをかけたとすればおわびして欲しい』と申し上げた。

1・29

日本教育会熊本県支部（校長などで構成、支部長・瀬下享済せいせい高等学校長）が二月一日に予定している藤岡信勝東大教授の講演会を熊本県と熊本市の教育委員会が後援していることに對して、「歴史を歪曲する藤岡信勝講演会に反對する市民の会」（自衛隊の海外派兵に反對する熊本市民フォーラム）など約五十の団体・個人が参加・賛同）が、両教育委員会に後援の取り消しを申し入れ、県教委は拒否。（三十日には、「子どもと教育くらしを守る県教職員懇談会」と「新日本婦人の会熊本本部」が県教委に後援の撤回を要請。三十一日にも「熊本『証言』集会実行委員会」が県・市教委に抗議）。

●同日付『産経』によれば「参院自民党が政策審議会に設置した『教育問題に関するプロジェクトチーム』（座長・井上裕元文相）は、昨年十二月中旬の会合を最後に再開のメドが立っていない。教科書問題への対応をめぐって、打ち切りを求める座長と議論の継続を訴えるメンバーとが対立しているため」。

1・30
参院予算委員会での質疑の一部。田村秀昭議員（新進党、会派＝平成会）「中学校教科書に事実と違う部分がある。訂正する気はあるのか」。小杉隆文相「慰安婦の部分については目を通したが、妥当と判断している」。片山虎之助議員（自民党、「明るい日本」議連）「教科書でも政府のものでも、従軍慰安婦という言葉をやめていただきたい」。小杉文相「従軍慰安婦の問題が教科書に載ったのは、戦後処理問題が議論された一九九一年三月頃からだ。政府として調査し、内外の調査機関にあたったり、資料を検証したりして、客観的な結果として、九三年八月に慰安婦関係調査結果が公表された。この問題が社会的に大きく取り上げられ、歴史の実証として、中学生にも理解できるとして、執筆に踏み切ったと思う」。

●平林博内閣外政審議室長(同じく片山議員への答弁)「政府が調査した限りの文書には軍や官憲の強制募集を示す記述は見いだせなかったが、総合的に判断した結果、一定の強制性はあると判断した」(片山議員が資料の予算委提出を要求したため、理事懇談会で協議した結果、全会一致で提出を求めることで合意)。

1・31

『読売』が社説「見逃せぬ『言論封じ』の動き」で、三浦商工会議所の櫻井よしこ講演中止について、神奈川人権センターを批判。同紙朝刊「編集手帳」も櫻井擁護。同センターは文書で社説の修正を要求。同日、埼玉県羽生市と同市教育委員会などが主催する講演会(二月二十二日)で当初講師に予定されていた櫻井よしこがキャンセルされイーデス・ハンソンに変更されたことが判明。

●文部省記者クラブで「新しい歴史教科書をつくる会」の高橋史朗明星大教授ら呼びかけ人代表が、三十日現在でまとめた賛同者名簿を配布(言論・経済・スポーツ界から計二〇三人、2・1付『産経』が氏名・肩書きを掲載)。同会が三十日、任意団体としての設立総会を開き、会長に評論家の西尾幹二、副会長に藤岡信勝東大教授を選任したことを明らかにし、社団法人化を視野に入れて幅広く会員を募集しながら、歴史教科書の正常化運動を進める考えを示す。さらに櫻井よしこの講演が各地で中止されたことに憂慮を表明。

2・1

テレビ朝日系『朝まで生テレビ』で「従軍慰安婦問題と歴史教育」を放映。

- 日本教育会熊本県支部主催の藤岡信勝講演会(熊本市、約六百人参加)
- 福岡キリストの墓屋主催の藤岡信勝講演会(福岡市、約二百人参加)
- 「新しい歴史教科書をつくる会」が一月三十一日に公表した賛同者名簿に賛同者として名前が掲載されたダイエーホークスの王貞治監督は賛同していないことが判明。

2・2

フジテレビの報道番組での中曽根康弘元首相の発言「ガードレールのようなある程度の枠はいるが、(学校教科書の)検定をやめて自由につくれるようにした方がいい。今はまるで上から与えられたものを採用している。教科書会社の寡占形態をやめ、だれでも良い教科書をつくれるという競争時代にしたい」。

2・3

「よしりんの主張を支持する読者」による「十代から二十代の若者中心」の文部省・外務省に向けた教科書是正要求集会デモ(主催「教科書是正を求める青少年の会」)。参加者は約三十五人で、若者は五、六人〔2・4付『産経』は「大学生ら約五十人」と表記。右翼団体の街宣車つきでデモ「よしりん」雑誌『S APIO』(小学館発行)連載の「新ゴーマニズム宣言」で、教科書の「従軍慰安婦」記述の削除を呼号している漫画家小林よしのりのこと〕

・〔集会・デモで撒かれたチラシ「まった!その教科書」の一部〕「慰安婦とは明日にも命を落とすかもしれない兵隊をなくさめる公娼のことであつて、兵隊と慰安婦の営みを非難できるでしょうか?」(日本の教科書がアジアの反日感情を煽る結果になってしまひ)現に昨今の日本は、竹島や尖閣諸島の領有権の正当性についてさえ、何も言えなくなつてしまいました」(本誌P 68)

・和歌山市内で藤岡信勝が講演(和歌山「正論」懇話会)。発言の一部「大東亜戦争が結果として東南アジア諸国の独立に寄与したという事実についても子どもたちは知る権利がある」「自虐的な歴史教育を克服しないと、日本は国家として生き残れない」。

・衆院予算委員会での質疑西村真悟(新進党、「正しい歴史・議論」)「私は、梶山官房長官の発言が事実と反すると思わない。なぜ、韓国の金泳三大統領に陳謝したのか。橋本首相「陳謝」という言葉が適切かどうかかわからないが、お客さんとしてお迎えし、報道されたことに對し、不快を覚えられたとすれば申

し訳なかった、ということでは確かに申した。西村「陳謝というのは謝罪ではないのか」。橋本「報道されることが不快感を与えたとすれば申し訳なかった」(2・4付『産経』の見出し)「首相、報道を否定、

〔註 本略年表は、九七年二月四日朝までに入手したニュースに基づいている。制作者〕

「従軍慰安婦」削除を要求

「新しい歴史教科書をつくる会」発足

賛同者 言論・経済界から78人

来春から使用される中学校社会科の全教科書(七社)に「従軍慰安婦」が記載されるなど教科書の近現代史記述の偏りが指摘される中、次代の日本人を育てるのに必要と見做し「新しい歴史教科書をつくる会」が二日発足した。呼びかけ人は自由主義史観研究会代表の岡田英樹(中央大学教授、評論家)の西原啓二氏、エッセイストの阿川佐和子氏ら計九人。同会は現行教科書に「日本の近現代史を全体的に歪曲し、歴史を断片して筆を進めている」と批判。次世代に自信を持って伝えられる歴史教科書の作成、関係を目指すほか、文相に「従軍慰安婦」記述の削除勧告要求などの活動を展開する(一)。(社会面に関連記事)

呼びかけ人は、ほかに漫画家の小林七しのり氏、版画家の山本卓、宇野浩二氏、高橋史朗、明大教授、作家の林真理子氏、作家の深田祐介氏、評論家の山本夏彦氏、賛同者として言論界から藤井寛、千葉商科大学、山本卓、富士通会長、坂名を連ねている。



漫画家の小林七しのり氏は、歴考から寄せられた数百通の手紙を前に「若者の目は歴史に向いている」と語った。東京・永田町の赤坂東急ホテル

のを願って、日本の近現代史全体を批判の歴史と断罪して筆を進めている」として、現行教科書を批判した。そのうえで「戦後五十年間の発想を改め『歴史と日本』の教科書に立ち返り、どの民族も例外なく持つべき日本国の正史を回復すべく努力する必要がある」と訴えたい。日本の次世代に自信を持って伝えられる歴史ある歴史教科書を作成し、関係する「会」を目指すとの声明文を発表した。同会は当面、①国際社会に生きる日本人に必要と見做し「新しい歴史教科書をつくる会」の現行の歴史教科書の問題点を批判、検討する基礎的研究と教科書制度の在り方や業界の裏面調査の立ち上げの十二月の「従軍慰安婦」記述の削除勧告要求などの活動を展開。食、衣、住、財を食め、民に呼びかけて議論を深め、より学問的にも、社会的にも優れた教科書づくりを目指すという。

資料1 「従軍慰安婦」記述削除要求関係

〈緊急アピール〉

中学教科書から「従軍慰安婦」記述の削除を要求する

一九九六年八月 自由主義史観研究会

「従軍慰安婦」全社に登場

去る六月二七日、来年度から使用される中学校社会科教科書の文部省による検定結果が公表された。そのうち、歴史分野の教科書全七社（日本書籍、東京書籍、大阪書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版）に、いわゆる「従軍慰安婦」に関連する記述が新たに加えられた。来年の四月から教室でこの教科書が、思春期の多感な中学生に与えられることを考えると、事態は極めて重大である。今回新たに登場した「従軍慰安婦」に関連する記述は、次の通りである。

また、多くの朝鮮人女性なども、従軍慰安婦として戦地に送りだされた。（教育出版）

従軍慰安婦として強制的に戦場に送りだされた若い女性も多数いた。（東京書籍）

……朝鮮から多くの人々を強制的に日本へ連行しました。……これらの地域の出身者のなかには、

従軍慰安婦だった人々、……などがいます。(帝国書院)

また、女性を慰安婦として従軍させ、ひどいあつかいをした。(日本書籍)

また、朝鮮などの若い女性たちを慰安婦として戦場に連行しています。(大阪書籍)

植民地の台湾や朝鮮でも徴兵が実施された。慰安婦として戦場の軍に随行させられた女性もいた。

(日本文教出版)

朝鮮や台湾などの女性のなかには戦地の慰安施設で働かされた者もあった。(清水書院)

私たち自由主義史観研究会は、暗黒・自虐の歴史像を克服する近現代史教育の改革を進めてきた立場から、この度の「従軍慰安婦」関連記述の登場に、以下の理由で反対する。また、文部大臣の職権に基づく教科書の訂正を要求する。

「従軍慰安婦」は存在せず

第一の理由は、そもそも「従軍慰安婦」なる言葉は、正規の用語として存在しなかったということである。従軍看護婦、従軍僧侶、などは存在した。これらは、「軍属」という正式な身分に属していた。しかし、従軍慰安婦という制度は旧日本軍には存在しなかった。戦地の慰安所は軍の庇護のもとに民間業者が経営したのである。かつて存在しない言葉を使い、しかも指示対象の性格について明らかに誤解を

生むような通俗的な用語を教科書に用いるのは、そもそも最初から不見識・不適當である（以下、従軍慰安婦をすべて「」つきにするのは、用語への不当性への批判を込めてのことである）。

以上の見地から、教育出版、東京書籍、帝国書院の三社の教科書は「従軍慰安婦」という言葉を用いている点においてだけでも、その記述は訂正される必要がある。また、日本書籍の場合も、「慰安婦として従軍させ」として、ほぼ同様の用語法に従っている。これも正しくない。

「強制連行」はなかった

第二に、「従軍慰安婦」問題の焦点は、慰安婦が自由意思によって戦地の仕事を選んだのか、それとも日本の軍や警察によって強制的に狩り集められたものなのか、という問題である。

この慰安婦問題の背景としておさえておくべきことは、戦前の日本では売春が法的な商売として認められていたということである。内地で売春が商売として行われたのと同じく、戦地でも軍の保護と承認のもとに売春業者が男性の集団である軍隊を相手に商売を行った（日本で売春が法的に禁止されたのは、戦争が終わってから何年も経ってからのことである）。

そこで、いわゆる「従軍慰安婦」問題で非難されるべき点があるとすれば、日本軍が戦地で働く意志がない女性を人さらいのようにして強制的に連行し、慰安婦をさせた方針をとっていたというような場合である。しかし、日本軍による強制連行を示す明確な証拠はただの一件も存在しない。ただし、自分が強制連行したと称する日本人が現れて、著書まで出した。ある歴史家が朝鮮の現地に行つて調べてみると、まったくウソであることがバレてしまった。

そもそも、軍による強制連行があつたなら、あれだけ反日をこととしている韓国が過去五十年間近く

もそれを日本の犯罪としてその問題を持ち出さないとせず、その証拠も、それが存在すればとつゝの昔に明らかにされているはずである。持ち出さないということは、そういう事実はなかったということだ。ところが、教科書には、この強制連行があたかも確実な事実であるかのように書かれている。

東京書籍は「強制的に戦場に送り出された」とし、帝国書院も「強制的に日本へ連行」した朝鮮の人々のなかに「従軍慰安婦」を含めている。大阪書籍は「戦場に連行し」と表現している。「強制的」「連行」などの語を使わない教科書でも、「戦地に送り出された」（教育出版）、「従軍させ」（日本書籍）、「随行させられた」（文教出版）、「慰安施設で働かされた」（清水書院）など、いずれもハッキリ強制であることがわかるように書かれている。これは重大な事実誤認である。

なお、軍が関与したことが問題だという見解があるが、それはスジ違いである。一例を挙げて説明しよう。文部省の建物の中に民間業者が経営する食堂がある。文部省の職員が主に利用するが、文部省が経営しているのではない。文部省はこの業者に建物の一部を提供し、水道・光熱などの使用の便宜を与えている。そういう形で文部省は食堂に「関与」しているが、かといってこの食堂を文部省が「経営」しているのではない。食堂の従業員は、国家公務員ではない。民間の業者に雇われた従業員である。

戦地慰安所と軍の関係もこれと全く同じである。軍が関与しているのは当然だが、それは文部省の食堂と同じ意味においてなのである。

日本人は好色・淫乱・愚劣な国民か

第三に、軍隊であると日本国内であるとを問わず、売春そのものが許しがたい悪徳であるという観点から「従軍慰安婦」問題を教科書にとり上げるべきであるという主張があるかも知れない。

だが、それなら、内地でも売春は普通に営業されていたことを教えないといけない。また、日本の軍隊だけでなく、他国の軍隊も同様の制度をもっていたことを書かなければならない。現に、アメリカ占領軍が日本に進駐したとき、同様の施設を日本側に要求し、政府はあわてて日本人の女性を募集した事実がある。これも書かなければならない。

そういうことをすべて伏せておいて、戦前の日本の軍隊の慰安施設だけを取り立てて今日の価値基準で糾弾することはどうアンフェアなことではない。他国民に比べて日本人だけが特に好色・淫乱・愚劣な国民であったかのような誤った印象を日本人の中学生の脳裏に刻み込ませるとはもつての外である。

そもそも「従軍慰安婦」を問題にする論者たちが本当に売春はいけないという信念から発言や行動をしているのなら、彼らは昔のことを問題にするよりも先に、現在の日本の売春の実態こそを糾弾しなければならぬはずである。なぜなら法的禁止にもかかわらず（他国と同じように）今日の日本で売春が盛大に行われていることは誰もが知っている公然の秘密だからである。「従軍慰安婦」問題を糾弾する彼らの真の動機が売春それ自体の否定ではなく、日本の国家や軍隊を敵視し、誹謗することにあるのは明白である。

教育的に無意味である

第四に、「従軍慰安婦」をとり上げることは、そもそも教育的に意味のないことである。

人間の暗部を早熟的に暴いて見せても何も得るところはない。暗部に目をふさぐべきではないという議論もあるが、そういう類の知識は、大人になる過程で子どもは自然に身につけていくものである。そういう種類の知識は数多くある。学校教育という限られた時間的制約の中で、教室で、教科書にまでさせて、教師が、授業時間に教えないといけないことがらは断じてない。「従軍慰安婦」をとり上げた

教科書の著者たちは、とり上げた以上、教師がどのように授業で取り扱うべきかを示す義務がある。もっと具体的にぐわしく説明してほしいと子どもが要求したら、教師はどう対応すべきなのか。責任ある回答をお願いしたい。教科書著者たちには、これら一切の質問について答える義務がある。

文部大臣は教科書訂正勧告を

この度、全社の教科書にいつせいに「従軍慰安婦」が登場したということも、誠に不明朗である。

一九九三年、自民党単独政権の最後の内閣となった宮沢内閣の河野官房長官は、八月四日付けて、「慰安婦関係調査結果発表に関する内閣官房長官談話」を発表した。その中に次の一節がある。

「慰安婦の募集については、軍の要請を受けた業者が、主としてこれに当たったが、その場合も、甘言、強圧による等、本人たちの意思に反して集められた事例が数多くあり、更に、官憲等が直接これに加担したこともあったことが明らかになった」

ところが、その調査資料のどこを見ても、「官憲」の「加担」を示すものはただの一件も存在しない。要するに、韓国側に強要され屈服し、政府は事実にならないことを事実であるかのようにいつわったのである。政府のその場しのぎの謝罪外交に教科書が定見もなく直ちに追従する。これは、教育を政治の道具にすることである。ある教科書会社は、「従軍慰安婦」を入れた理由をきかれて、「マスコミなどで大きく報道されている問題であり、この問題にまつたくふれなければ、世論から批判を受けると判断した」と答えている（産経新聞、六月二九日付け、四九ページ参照）。このように、教科書著者たちが、声の大きいマスコミがつくり出す「空気」に支配されている点で、その体質は戦中の軍国主義時代と同じである。

自国の近現代史教育のあり方こそは、一国民を国民として形成する最重要の条件である。誇るべき歴

史を共有していない限り、国民の自己形成はできない。

わが「自由主義史観」研究会は、文部大臣が、教科用図書検定規則第一三条第三項の規定に基づき、各教科書会社に「従軍慰安婦」関連記述を削除する訂正勧告を出すように要求する。

七社の教科書の主な記述と「従軍慰安婦」を取り上げた理由

大阪書籍	教育出版	
<p>政府は、兵力や労働力を補うため、大学生も兵士として動員し、中学生や女学生を軍事工場で働かせました。そのうえ、朝鮮からは約七〇万人、中国からも約四万人を強制的に日本へ連行して鉱山などで働かせました。また、朝鮮などの若い女性たちを慰安婦として戦場に連行しています。</p>	<p>労働力不足を補うため、強制的に日本に連行された約七〇万人の朝鮮人や、約四万人の中国人は、炭鉱などで重労働に従事させられた。さらに、徴兵制のもとで台湾や朝鮮の多くの男性が兵士として戦場に送られた。また、多くの朝鮮人女性なども、従軍慰安婦として戦地に送り出された。</p>	<p>従軍慰安婦・強制連行に関する各社の主な記述</p>
<p>女性の視点を重視して編集した結果、避けて通れない問題と判断した。</p>	<p>従来から日本とアジアの関係史に手厚く編集してきたが、社会的な関心を集めており、将来的にも重要な問題と考えた。</p>	<p>従軍慰安婦を取り上げた理由</p>



日本文教出版	日本書籍	東京書籍
<p>植民地の台湾や朝鮮でも、徴兵が実施された。慰安婦として戦場の軍に随行させられた女性もいた。国内の労働力が不足していたため、朝鮮から約七〇万人、中国から約四万人の人々が強制連行され、炭鉱などでの労働をしいられた。</p>	<p>戦局が悪くなると、これまで徴兵を免除されていた大学生も軍隊に召集されるようになった。さらに、朝鮮から七〇万人、中国からは四万人もの人々を強制的に連れてきて、工鉦山・土木工事などにきびしい条件のもとで働かせた。朝鮮・台湾にも徴兵制をしき、多くの朝鮮人・中国人が軍隊に入れられた。また、女性を慰安婦として従軍させ、ひどいあつかいをした。</p>	<p>国内の労働力不足を補うため、多数の朝鮮人や中国人が、強制的に日本に連れてこられ、工場などで過酷な労働に従事させられた。従軍慰安婦として強制的に戦場に送りだされた若い女性も多数いた。</p>
<p>国際社会を生きていく上で避けて通れない問題だ。他社もすべて取り上げるとの予測もあった。</p>	<p>日本軍がアジアで犯したことに反省する意味を込め、当然のこととして記述した。</p>	<p>戦後補償の象徴的な問題としてクローズアップされており、平和教育に重要な視点を提起する問題。</p>

清水書院	帝国書院
<p>朝鮮や台湾などの女性のなかには戦地の慰安施設で働かされた者もあった。さらに、日本の兵力不足にさいし、朝鮮や台湾の人びとに対しても徴兵制をしき、戦場に動員した。</p>	<p>日本の植民地であった朝鮮や台湾の人々からも多くの犠牲者がでました。戦争で日本国内での労働力が不足してきたので、朝鮮から多くの人々を強制的に日本へ連行しました。この人たちは、鉱山・軍需工場・土建業などで、危険でつらい労働に従事させられました。これらの地域の出身者のなかには、従軍慰安婦だった人々、広島や長崎にいて原爆で被爆した人々、戦前日本領だった南樺太に終戦で残留させられた人々などがいます。</p>
<p>高校ですでに取り上げているほか、社会的な関心も強い。ただ、現場教育を配慮して「従軍慰安婦」という言葉は避けた。</p>	<p>マスコミなどで大きく報道されている問題であり、この問題にまったく触れなければ、世論から批判を受けると判断した。</p>

「新しい歴史教科書をつくる会」創設にあたっての声明

歴史教育の問題は、先の大戦に敗れてから半世紀にわたり繰り返し論じられてきたにもかかわらず、その歪みが正されるところか、近年ますます歪曲混迷の度を高めている。

とりわけ、この度検定を通過した中学七社の教科書の近現代史の記述は、日清・日露戦争をまで単なるアジア侵略戦争として位置づけている。そればかりか、明治国家そのものを悪とし、日本の近現代史

全体を、犯罪の歴史として断罪して筆を進めている。例えば、証拠不十分のまま「従軍慰安婦」強制連行説をいっせいに採用したことも、こうした安易な自己悪虐史観のたどりついた一つの帰結であろう。とめどなき自国史喪失に押し流されている国民の志操の崩落の象徴的一例といわざるをえない。

いったいなぜこういうことになったか。日本人は戦後五十年間、世界を二分した米ソ二超大国の歴史観をあいまいに国内に共存させてきた。歴史教科書の記述はこの二つの混交の良い一例である。本来原理的に対立しながら、対日戦勝国として日本の歴史的過去を否定する二つの歴史観が戦後日本の知識人の頭の中では合体し、共存してきた。その結果として、日本自身の歴史意識を見失ったのである。

周知の通り、冷戦終結後の東アジアの状況は猶予を許さない。どこの国にも独自の歴史観があり、それぞれ異なる歴史意識があり、他国との安易な歴史認識の共有などあり得ない。ことに幼いナショナリズムを卒業しているわが国と、いま丁度初期ナショナリズムの爆発期を迎えている近隣アジア諸国とが歴史認識で相互に歩み寄るとしたら、わが国の屈伏という結果をもたらすほかはないだろう。それは、先に述べた歴史喪失症状にさらに輪をかけ、病を重くするだけである。

われわれはここに戦後五十年間の発想を改め、「歴史とは何か？」の本義に立ち還り、どの民族も例外なく持っている自国の正史を回復すべく努力する必要がある。われわれは日本の次世代に自信をもって伝えることのできる良識ある歴史教科書を作成し、提供することをめざすものである。心ある各界各層のご指導とご支援をお願いしたい。(一九九六・十二・二)

〈呼びかけ人〉 阿川佐和子(エッセイスト) 小林よしのり(漫画家) 坂本多加雄(学習院大学教授)

高橋史郎(明星大学教授) 西尾幹二(電気通信大学教授) 林真理子(作家) 深田祐介(作家)

藤岡信勝(東京大学教授) 山本夏彦(エッセイスト)

資料2 自治体の決議と反論

岡山県議会で採択された陳情

付託委員会Ⅱ文教委員会

陳情第75号（8・12・2）

提出者 岡山県東山2―1―12 岡山県教科書是正協議会 会長 江見 祐道

今後採択される中学教科書から「従軍慰安婦」並びに「三光作戦」等の記述の削除を求める意見書提出について

陳情の内容

陳情要旨 今後、採択される中学校教科書から「従軍慰安婦」並びに「三光作戦」等の記述の削除を求める県議会意見書を提出されるよう陳情する。

陳情理由

1、当時「従軍慰安婦」という存在はなく、その言葉もなかった。明らかな通俗用語であり、歴史教科書には不適切である。

ほとんどの教科書が「従軍慰安婦」が強制連行された印象を与えているが、現在「強制連行」の事実は何一つ判明していない。

2、中学生という性教育も中途な時期に「従軍慰安婦」について社会科の授業で教えることは、教育的

配慮を欠くばかりか、その影響ははかりしれないものがある。

内地でも公認で營業されていたことや、外国の軍隊にも同様の施設があったことを書かないで、戦前の日本の軍隊のことだけを取り上げ、今日の価値判断で糾弾することほど理不尽なことはない。

3、外国の人々に比べて、日本人だけが好色、淫乱、愚劣な国民であつたかのような印象を、中学生の脳裏に刻み込まれる。

4、日中戦争の「三光作戦」の記述は誤りである。これは、かつて中共軍が国民党との戦いに用いた言葉で、日本軍を非難したもので、「皆を殺し、奪い尽くし、焼き払う」の意味であり、日本語にはない。このような作戦を我が軍がやったことがないのはもちろん、聞いたこともない作り話である。

※同様趣旨の陳情・意見書が岡山県下では英田郡大原町議会／瀬戸町議会／加茂町議会などから提出され、可決された。

新潟県栃尾市議会の意見書

文部省検定済み平成九年度使用中学校教科書改訂に関する意見書の提出について

地方自治法第九十九条第二項の規定により、関係諸官庁に対し、文部省検定済み平成九年度使用中学校教科書改訂に関する意見書を別紙のとおり提出するものとする。

平成八年十二月六日 提出

提出者 栃尾市議会議員 嶋田 進

賛同者 同 平林豊作

同 大塚一夫

同 荒木幸男

平成八年度十二月六日 議決 栃尾市議会議長 西川洋吉

文部省検定済み平成九年度使用中学校教科書改訂に関する意見書

文部省検定済み平成九年度使用の中学校教科書に慰安婦問題をはじめ、南京大虐殺、三光作戦など歴史的事実としては充分な検証が成されていないとされる事柄が記述されており、極めて自虐に満ちた内容となつている事は誠に遺憾であります。教科書に書かれている内容の信頼性を疑問視する事は、歴史観そのものの認識が未成熟な中学生段階において皆無に等しいものと見なければならず、自国を大切に思う子どもを育くむ公教育の場にそぐわないものと思われまふ。よつて政府、文部省においては早急に検定済み教科書の再検討を行い、日本人として生きる事に誇りをもてる内容に改訂する事を強く要望いたします。

以上、地方自治法第九十九条第三項の規定により意見書を提出いたします。

平成八年十二月六日

新潟県栃尾市議会議長 西川洋吉

提出先 内閣総理大臣 様

文部大臣 様

岡山の市民グループの抗議行動

緊急のお願い

教科書からの「従軍慰安婦」の記述削除を許さない！

岡山県議会と自民党県議団へ抗議のFAXをお願いします

十二月十三日、岡山県議会の自民党県議団が、来年度の中学校教科書に記述されることが決まっている「従軍慰安婦」問題の記述を削除する意見書を国に出すように求める陳情を採択する方針を決めました。十九日の本会議で採否を決める方針ですが、自民党が過半数（五十八人中三十八人）を占めるため、極めて憂慮される状況です。

陳情をしたのは、県遺族連盟、県郷友軍恩連盟など三十四団体でつくる岡山県教科書是正協議会。

陳情は県議会として意見書を出すよう求めていましたが、小杉隆文相が十一月の国会で「削除は考えていない」と答弁し、これを橋本首相が支持していることに配慮し、意見書提出は見送り、趣旨採択にとどめるとの情報もあります。

全国、世界から抗議のFAXを集中して下さい。時間がありません。多くの声を寄せて下さい。

抗議先

県議会議長（肥田璋三郎）あて

議会事務局 FAX 086-224-9271

自民党県議団（議員控室）FAX 227-0537

抗議行動（予定、詳細は下記の連絡先にお問い合せ下さい）

十八日午後三時、県庁に集合し県議会へ抗議行動を行います。

できるだけたくさんの方の参加をお願いします。また十九日の県議会傍聴もやりましょう。

時代をきりひらく平和憲法の会

TEL 086-224-4090 または223-6884

FAX 086-226-3085（ほっと・すぺーす）

教科書記述削除を求める陳情採択に抗議する共同アピール

昨年十二月十九日、岡山県議会の自民党県議団は、今春から使われる予定の中学教科書から「軍慰安婦」「三光作戦」などの記述を削除するよう求める陳情を趣旨採択しました。

陳情をしたのは、県遺族連盟など三十四団体でつくる「県教科書是正協議会」。理由に、「①『従軍慰安婦』という存在や言葉はなかった。また、強制連行の事実もない。②性教育上、中学生に教えることは教育的配慮に欠ける。外国の軍隊にも同様の施設があったのに、日本の軍隊だけ糾弾するのはおかしい。③日本人だけが好色、淫乱、愚劣な国民だったかのような印象を与える。④日中戦争の『三光作戦』は作り話であり、記述の誤り」とあります。

理由を読めば、陳情がいかに事実をねじ曲げ、歴史に逆行する非常識なものかわかるのですが、この非常識が自民党県議団総会を通過し、文教委員会でも採択され（委員九人中自民五

人)、本会議で圧倒的多数(五十八議席中三十八議席)の自民党議員全員の起立により採択されてしまったのですからたまりません。

県内でも既に昨年九月、大原町・瀬戸町議会で意見書採択、北房町議会で趣旨採択という結果が出ています。こうした動きは全国的なもので、新潟・熊本県議会(十二月)でも同様の陳情が継続審議になっています。背景に、「新しい歴史教科書をつくる会」(十二月二日結成。藤岡信勝・西尾幹二・小林よしのり氏ら九人のよびかけ)の動きもあって、「日本人としての誇り」を強調する人たちがマスコミにしばしば登場するようになりました。

抗議に行った私たちの前で、「先祖の恥をいつまでもさらしたくない」と発言した原団長や、本会議の退場時、傍聴席の私たちに向かって「お前らあ日本人じゃない。非国民!」と叫んだ数人の自民党議員たちも、「日本人としての誇り」を失いたくない一心で、今回の陳情を採択したのでしょうか。

しかし、誇りや自信を育てる教育とは、過去の罪を事実として認め、二度と同じ過ちを繰り返さないために何ができるか一緒に考え、具体的に実践していくことではないかと、私たちは考えています。

私たち『慰安婦』問題を考える女たちの会』は、女性の人権という共通の視点から地道に学習会を重ねてきました。昨夏には、韓国の李容洙さんや中国の万愛花さんの証言を聞いたり、韓国の元『慰安婦』の人たちの日常を描いたドキュメンタリー映画『ナヌムの家』を上映(他のグループとの共催)したり、昨秋には、ビヨン・ヨンジュ監督を招いて語り合いました。

多くの女性が、本人の意思に反して(暴力や脅し、嘘によって)『慰安婦』として調達・連行さ

れた事実、「慰安所」で何人もの日本軍兵士を相手にセックスを強要されていた事実、そのために体や心に今も残る深い傷が刻まれ苦しんでいることなど、勇気をもって名乗り出られた彼女たちの証言に、自民党県議団の男性たち（一人は女性）は、一度でも耳を傾けたことがあるのでしょうか。「事実」を否定する根拠を知りたいものです。

また、こうした姿勢は決して過去のものではなく、女性やアジアの人たちに対する人権侵害という形で、今も根強く残っている性差別や外国人差別の延長線上にあると私たちは感じています。その証拠に、十二月県議会では選択性別姓法案への反対陳情までセットで採択され、理由の一つに「国体護持の思想」が持ち出されているのです。

全国に先駆けてなされたこれらの決議に対し、私たちは女性の権利や意志に反した暴力だと怒っています。国内外の憤りを共有する人たちからも、県議会へ抗議のFAX（現在までに約千三百通）が殺到しました。

「慰安婦」問題は、戦争中に国家間でおきた女性への暴力であると同時に、今も続いている「被害者女性（個人）への重大な人権侵害」です。既に高齢となられた被害者の女性に対して、誠意ある謝罪や個人補償がなされないばかりか、またしても彼女らの心や尊厳を傷つけようとする陳情採択を、私たちは決して認めないし、今後も一切許すことができません。

アジアとの共生や人権尊重を基調にした教育が、今こそ求められています。歴史の事実を目をつむることなく、子どもたちに真実を伝え、ともに考え行動していくことが、私たち大人の責任ではないでしょうか。

一九九七年一月二十一日

◎呼びかけ人：「慰安婦」問題を考える女たちの会

石田米子・和泉富美子・市場恵子・岡本美弥香・加藤喜代美・黒見節子・高村幸子・
チヒョンジュ・難波幸矢・藤田えり子・横田悦子・吉田良子・石原真紀子・大澤知子・
田中はるこ・野瀬英子・松島久恵・山崎雅子

☆この抗議アピールの趣旨に賛同する人（男性もOK）を募っています。

☆FAX先 086127717522 / 25319040 / 27612467 /

086812712341

「女性の人権」という帆を持ち直して

市場 恵子

まるで「だまし舟」にひっかかったような心境なのである。確か帆を持っていたはずなのに、いつの間にか舳先を持たされていたという……。

昨年末から岡山県では、「草の根ファシズム」の動きが妙に活発になっている。その皮切りになったのは、県議会への陳情二つとその選択。

「新しい歴史教科書をつくる会」（藤岡信勝・西尾幹二・小林よしのりらのよびかけで十二月二日結成）の動きと相呼応するかのようには、十二月岡山県議会へ「中学教科書から『従軍慰安婦』『三光作戦』等の記述を削除するよう求める陳情（夫婦別姓反対）の陳情もセット」が提出された。

私たちは即座に抗議行動を起こした。しかし、自民党県議団は「事実ではない」「教科書に載せることは教育的配慮に欠ける」「先祖の恥をさらすな」「日本人なら恥を知れ」という明らかに矛盾した論理（つまり感情）をふりかざし、議会で圧倒的多数という暴力を使って趣旨採択を成し遂げた。それこそ「恥」をさらしたのである（国内外から千三百通もの抗議FAXが届いている）。

抗議の課程で、時代に逆行した陳情派に対し、私たちは時に「橋本首相（政府）も認めている事実である」「記載は文部省が決定したこと」という、いわば「体制」を掲げた論法も使わざるをえなかった。しかし、私たちが基本的に見失ってはならないのは、北京公議以降積み上げてきた地平（慰安婦問題）は女性への重大な人権侵害であり、何よりも被害者への誠意ある謝罪と個人保障が早急になされるべきである。

まずまず、「草の根ファシズム」は元氣（岡山県下の市町村議会に次々と陳情・請願を提出中）であるが、私たちは「女性の人権」という帆を持ち直して、あくまでも明るく楽しくこれからの活動を仲間とやっていくつもりだ。

（「慰安婦」問題を考える女たちの会（岡山））

資料3 月刊『SAPPIO』に対する

福岡県市民団体の申し入れと回答

「新ゴーマニズム宣言」作者、小林よしのりさんへの抗議と申し入れ書

私たちは小林よしのりさんの出身地である福岡や各地で反差別、死刑廃止、反戦・反核・反基地運動、環境問題を考える運動、労働運動、そして、日本の戦後責任を問い、「従軍慰安婦」の裁判支援などを行っている団体、個人です。かつて、小林よしのりさんは、部落差別の問題を、「ゴーマニズム宣言」に取り上げ、社会派漫画家としての評価を得ましたが、はたして、現在の状況はどうしたことでしょうか。小学館発行の雑誌『SAPPIO』一九九六年8・28/9・4号の「新ゴーマニズム宣言」第24章「従軍慰安婦カマトトマスコミを撃つ」に至っては、もはや、私たちは黙ってはいられないほどの衝撃を受けました。「マスコミを撃つ」と言いながら、その内容は元「従軍」慰安婦へ、そして、全女性に向けられた差別意識の吐露であり、元「従軍」慰安婦の女性たちの支援をしてきた人たちへの誹謗中傷です。

旧満州においてレイプされた日本女性たちが、その事実を語らず胸に秘めていたことを「すごい」「誇りに思う」ということは、逆に、必死の思いで名乗り出た、元「従軍慰安婦」の女性たちについては、どのように評価されるのでしょうか。また、「従軍慰安婦」に限らず、レイプされた女性が告訴等に踏みきる行為をどう評価されるのですか。小林よしのりさんは、レイプされた全ての女性が黙っているべきであるとお考えなのか。レイプされた女性がどれだけの苦しみを乗り越えて、その事実を訴えるのか、また一体なんのためにそんなことをするのか、理解されていないようです。

レイプ被害者は、たとえ妊娠や身体的傷害を乗り越えられたとしても、自分の意に反した性行為を強要されたということで自己否定に陥り、自傷行為や自殺未遂を繰り返したり男性恐怖症に悩まされることが多く見られます。そして、あまりの苦痛から、その被害を忘れようとすることがあります。または、レイプについて、まだまだ被害女性のほうに落ち度があると見られがちな社会においては、その失うものの大きさから、女性はレイプの事実を隠そうとすることもあります。しかし、元「従軍慰安婦」として名乗り出た人たちは、家庭もなく家もなく、もはや失うものがない者が多いのです。彼女たちは人生の終盤近くになり、このまま黙って死んでしまっているのか、本当に自分たちがこんなつらい人生を送ったのは自分たちのせいだったのかと振り返ったとき、「そうではない」と思うことができたのではないのでしょうか。

レイプされた女性が、加害者を告発することやレイプの事実を人に訴えることは、自己否定からの回復を図るために非常に有効な手段となります。「自分は被害者なのだ。自分は悪くない。悪いのは、加害者だ」との確信を得ることは大切なことです。しかし、その道は決して平坦ではありません。「本当に、レイプだったのか」「死ぬほど抵抗したのか」と、社会はレイプされた女性に冷たいのです。いわゆるセカンドレイプです。他の犯罪では被害者が責められることはあまりないでしょう。電車の中で財布をすられたとか、駅で置き引きにあったとか、道で通り魔に刺された等というときに、被害者の服装が問題にされたり、一人でいたのが悪い等と言われることがあるでしょう。それが、レイプ事件の場合にはあるのです。しかし、女だから夜道をひとりで歩けない、女は男の気をそそめよう服装に気をつけねばならない等というのは差別です。どんな状況であれ、レイプするほうが悪いのです。「自分の意にそわない性を強制されない権利」は、人間にとって基本的な権利なのです。その権利を侵されたことを公

にし、その権利を侵害した者に謝罪を要求することが認められなければ、ますます女性の人權は輕視され、いつまでもレイプのような犯罪がなくなることはないでしょう。私たちは、元「従軍慰安婦」が名乗りでて、日本に謝罪と補償を求めていく行為をこそ、「誇りに思い、すごい」と評価します。しかし、小林よしのりさんは、そんな勇氣ある彼女たちを、「従軍慰安婦は強制ではなかった」「お金をもらっていたんだから娼婦だ」と言っています。これは正にセカンドレイプではないですか。

私たちは、第29章の枠外に書かれた「そこら中の女、犯して妊娠させて認知せずに逃げたいわ」という文章にも抗議します。いったい何を考えているのでしょうか。これはジョークとはとても思えない悪質なセリフです。このような女性差別発言が許されるなど、断じて認める訳にはいきません。雑誌の発行責任者である小学館もまた、このような発言を支持しているのでしょうか。

さて、「従軍慰安婦」が強制連行であったかどうかというのですが、「いい仕事があるから」とだまされて、または、家の中や畑から無理矢理に連れていかれて、軍人相手の「慰安」活動を強制されたということは、多くの元「従軍慰安婦」が証言しています。お金を親がもらっていたとか、本人が収入を得ていたという証言は第三者から出ているようですが、たとえば、お金をもらっていた人が本場に存在したとしても、それで、すべての「従軍慰安婦」がお金をもらっていたということにはならないし、だまされて連れていかれて逃げることもできないようにされた彼女たちが、「慰安」活動を余儀なくされたということは、彼女たちの求めたものではなかったはずです。そういうことも含めて私たちは「従軍慰安婦」は「強制」だったと言っています。しかしながら、小林よしのりさん、あなたの話もほとんどが「証言」によるものです。私たちが支持する元「従軍慰安婦」の証言を「真相」と考えるか、あなたが信頼する証言を「真相」と考えるかは、この証拠が少ない中では、どのような観点に立つて物事を考えるか

によるところが大きいと思います。私たちも「歴史の真相」を知りたいのです。情報公開制度にあぐらをかいて真相究明に不熱心な日本の政府をこそ、小林よしのりさんも批判すべきなのではないですか。小林よしのりさん、あなたがもし本当に真相を知りたいとお考えでしたら、今のような漫画にはならないと思います。あなたが描いている漫画は、勇気を持って加害実態を証言しようとしている人たちを封じ込めようとするものだからです。

私たちは、非常に女性差別的であり、元「従軍慰安婦」へのセカンドレイプそのものであるような漫画が、大手出版社から発行される雑誌に掲載され続けることは、それを読む人たち、特にこれからの時代を生きていく若い世代への悪影響を考えたとき、このまま見過ごしにすることはできません。また、そのような漫画を掲載している雑誌『SAPIO』を発行する小学館の社会責任も問われるべきであると考えます。両者に対し、強く抗議すると共に、次の三点を要求します。

1、「新ゴーマニズム宣言」での元「従軍慰安婦」へのセカンドレイプと女性差別発言についての謝罪広告を『SAPIO』誌上に掲載すること。

2、抗議と申し入れ書の全文を『SAPIO』誌上に掲載すること。

3、「新ゴーマニズム宣言」の第24、26、29章等、元「従軍慰安婦」への侮辱的な漫画の単行本化をしないこと。

以上

一九九六年十一月二十日

漫画家 小林よしのり様

連絡先…福岡県福岡市中央区城内七ー十四（戦後責任を問う関釜裁判を支援する会）花房 俊雄

福岡県福岡市中央区白金二ー六ー十三ー二〇三 月刊『わいわい』編集部 まえだけいこ

『SAPIO』編集部から「新」ローマニズム宣言「抗議への見解と回答

皆様よりの『SAPIO』編集部への抗議と申し入れ書、確かに拝読いたしました。これに対する編集部の見解を簡単に述べさせて頂きます。

いわゆる「従軍慰安婦」問題は、来年度の中学校教科書にも記述されることから、国民的論議の対象となっており、教科書には「強制」及び強制連行を示唆する書き方がなされており、果たして実際に強制連行であったのか否かが大きな問題となっております。

しかし、残念ながらそこそがグレイゾーンであるのが現状です。元慰安婦の方々の中には「強制連行だった」と証言されている方がいらっしゃる一方、当時を知る方々や追跡調査した学者の方々の中には、「強制連行ではなく、慰安婦の人たちは業者が集めてきて、慰安所設営について軍が便宜をはかったにすぎない」との主張があることも事実です。

もし、当時の日本政府ないしは日本軍による組織的な命令、指示による慰安婦の強制連行があったとするなら、これは当時の日本が人類史に例を見ない醜悪な性犯罪国家であったわけで、日本人はその意味を直視しなければなりません。

果してどちらが真相であったのか。メディアとして、真相にたどりつく努力を続けなければならないと編集部は考えております。

こうした主旨から、小林よしのり氏がこの問題を「新ローマニズム宣言」でとり上げ、問題提起を続けていることはむしろ有意義なことではないでしょうか。

勿論、本誌は小林氏の見解を全て是としてゐるわけではありません。広く論議を喚起し、真実をつきとめることを本意としております。従つて、今後機会があれば「強制連行であつた」と考える論者や、元慰安婦への支援活動を続けている方々のご意見も掲載していきたいと考えております。

小林氏も作品の中で、ご自身への批判、反論を載せておりますが、これに限らず、編集部としても一方の意見だけを掲載して一方を封ずるという意志はまったくありません。

以上の観点から、お申し入れの「2」については、近刊号の誌上で皆様方の抗議主旨をできる限りくわしく読者に紹介する所存でございます。

ただし元慰安婦の方々の境遇にご同情申し上げることは別の次元で、「慰安婦」軍人による組織的レイプの被害者」という点についてはいまだ結論に至らず、まだまだ多くの点が検証されるべきだと考えますので、「1」、及び「3」、についてはご希望に沿いかねます。

また「ゴーマニズム宣言」の内容につき、抗議文で指摘された数々の点については、小林氏が作品の中で見解を表明されると思います。

いずれにせよ、いま、求められているのは言論の封殺ではなく、言論の喚起ではないでしょうか。様々な資料、観点から様々な見解が、本誌のみならず、多くのメディアに登場し、活発に論議されるよう微力ながら努力して行く所存です。

一九九六年十一月二十五日

小学館『SAPIO』編集部

(以上二つの文章は月刊『SAPIO』96年12月25日号より同誌の諒解を得て転載)

資料4 インターネットで流された「教科書是正デモ」のお知らせ（抜粋）

Yoshirin WATCH

はじめまして。このホームページは、SAPIOに現在、掲載されている「新ゴーマニズム宣言」の熱烈な読者を対象としたホームページです。

（中略）

特報！よしりん（小林よしのり）の主張を支持する読者は、集結。

教科書是正運動キャンペーンの開催が決定しましたのでお知らせします。

主催 教科書是正を求める青少年の会

代表 坂本憲治（メール代理 えはら）

趣旨 昨今の教科書問題の「あと一歩」を

10代から20代の若者（団塊ジュニア）を中心に年配者もまじえ、従軍慰安婦の記述に代表される偏向教科書の削除・訂正を訴え、文部省・外務省にむけてデモンストレーションを行ないます。

日時 平成9年2月3日

集合 PM1時30分 水谷橋公園（地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車徒歩1分）

行程 PM2時30分出発～文部省～外務省～日比谷公園～解散

その他

★10代・20代ならではの言葉、スタイルによるキャンペーンにしよう。

★御年配の方々にも援護的に参加して頂き、三世代が繋がったキャンペーンにしてゆこう。

★鬼のお面を持参するなどして、節分にちなんだスタイルにしてゆこう。

★若者らしいボキャブラリーでプラカード・のぼりを作り、持参しよう。

★当日は一般市民に私達の声を聞いてもらうことが大切。だからこそ一般市民を脅かす、迷惑をかける、あるいは誤解を招きかねない行為はやめよう。

★実行委員の注意・警告にはすみやかに従うようにしよう。

(後略)

※当日の参加者は三十五名という情報もある。

※当日のビラを次ページに掲載。

'97.2.4「産経新聞」



「鬼は外教科書自虐」若者が

参加。「ぼくらの祖先の汚名をはらせ」のスローガンの下、「『従軍慰安婦』の配速に代表される偏向教科書は許されないうえと訴えた。参加者は「子どもたちに正しい教科書を」「先生、本当のことを教えて」「などと叫びながらプラカードを持ち、中には「『恥辱』にちなんで鬼のお面をかぶり、怒りを表現する人もいた。デモ行進を主催した坂本代表は「『自虐的な歴史教科書では若者は日本史教科書の配速に誇りを抱いて、公正な中立な教科書が必要だ」と話していた。坂本代表らはこの後、

デモ行進

今春から使われる中学歴史教科書に登場する「従軍慰安婦」の配速削除などを求め、自発的に集まった若者グループが三日前、東京駅前などでデモ行進した。デモ行進を主催する「教科書改正を求める青少年の会」(坂本代表)の主催によるもので、約五十人が出た。

4 慰安婦との営みは外国の軍隊も例外ではありませんでした

慰安婦との営みは、当時外国の軍隊でも兵士のなぐさみとして常識でした。ならば、日本のみを特権とする事は、いかに日本人が突出して淫乱な民族かを子供の眼裏にまで写こむ事に なりかねません。我々が突出して淫乱と誇るのなら、この国の性犯罪の露さをもどう説明する のでしょうか？

5 「従軍慰安婦」という言葉自体が不適當です

「従軍慰安婦」なる言葉は、作家の千原夏光氏が「従軍慰安婦廢于」(1973年)という作品 で初めて使ったものであって、最初にはありませんでした。また「従軍」という言葉は、軍に 属しているという意味ですが、慰安婦は軍属ではありませんでした。雇用して労働に従事さ せていたのは、商行為が目的の売春料貸貸さだったのが事実です。

6 日本の軍人と慰安婦の間柄はけっして暗くは ありませんでした

教科書には日本軍が慰安婦の女性にひどい扱いをしたと書いてあるのですが、それは例外 的なケースなのです。実際はむしろピクニックに行ったりというケースがあったり、互いに恋 に落ちて結婚・結婚したというケースも珍しくはありませんでした。

今回の教科書にかざらず、ここ数年教科書の「近現代史」の偏りぶりは、常軌を逸してい るとしか言いようがありません。君が「日本（人）＝悪魔・陰人鬼」というイメージが刷 られるよう、創版工夫がなされており、丈じめに学習すればするほど、日本という 国がイヤになってしまう内容なのです。これは、明治以前の日本が明らかに悪い国だったか を子供に教える、日本人としてのプライドを失わせる事によって、「私たちはこんなに ら反省しているんですよ」といったイメージをアジアへ押し、友好を深めようとしている のです。ところが、英語は日本の教科書が「南京大虐殺」のような本能的な罪を松屋に聞 けば聞くほど、アジアの反日感情を煽る結果になってしまい、友好どころでなくなってい るのはご承知の事と思います。要に昨今の日本は、竹島や尖閣諸島の領有権の正当性につ いてさえ、何も言えなくなってしまいました。皆さん、考えてみてください。これが貴 の友好でしょうか？日本人が卑屈になれなくては、相手の国は強硬な要求を出してくる ばかりなのです。この傾向に歯止めをかけるには、まず歪正・中立な教科書で歴史を学び、 日本には日本なりの言い分がある事を理解する事が大事です。そしてアジアの人達と交 流し意見を交わす事ができるようになって、はじめて貴の友好が生まれるのです。

平成9年2月3日

まった！その教科書

2ヶ月後、つまり今年の4月から全国の中学校で使われる予定の歴史教科書の内容に、新たに「従軍慰安婦」の記述が追加する事が、いま社会問題になっています。慰安婦についてはまだ研究も始まったばかりであり、賛否両論が多く見受けられます。子供の教科書の公正・中立の観点から慰安婦の記述は削除すべきという声は、老若男女問わず全国規模でわきおこっており、戦後52年、客観的に歴史を見直す時期が訪れたのです。

従軍慰安婦記述の問題点は??

1 売春を子供たちに教えるには早すぎます

慰安婦とは娼婦の事ですから、売春をおしえる事になってしまいます。子供におしえるべきものでしょうか？ただでさえ「援助交際」が問題になっている時代です。慰安婦記述はあぶない！！と驚わなければなりません。

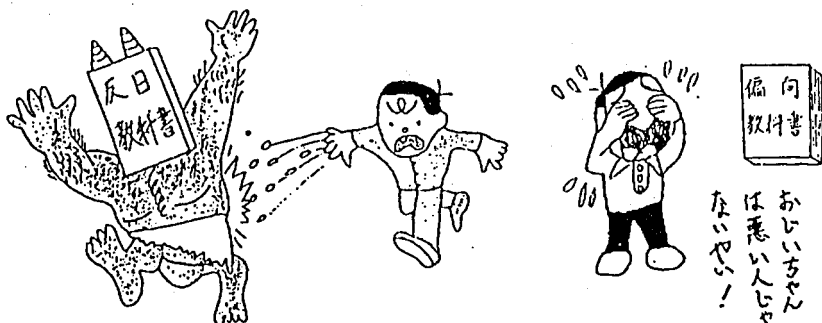
2 兵隊と慰安婦の営みは非難できる行為ではありません

慰安婦を記述するからには国民に反省をうながす意図があるのでしょうか。でも慰安婦とは明日にも命を落とすかもしれない兵隊をなぐさめる公娼のことであって、兵隊と慰安婦の営みを非難できるのでしょうか？悲しい時代だったと言うよりはかありません。

3 日本軍がアジアの女性を強制連行して慰安婦にしたという証拠は1つ也没有

今回の教科書には、アジアの女性が日本軍の強制連行によって慰安婦にさせられたように記述されていますが、実はそれを裏付ける証拠はまったくないのです。これまで証拠とされてきたのは、自分が強制連行したと称する日本人の虚言本でした。ところがこれはフィクションである事がバレてしまい、若者本人もそれを認めるにいたりしました。また、元従軍慰安婦を名乗ってお金を要求している人の証言は、どれも矛盾に満ちています。ここが、とても大事な部分です。

うらへー



資料5

日本教育会熊本支部による

藤岡信勝氏講演会に対する市民の 抗議行動

平成八年度 日本教育会熊本支部講演会のご案内

日本教育会熊本県支部では、次代の国民が、我が国の文化と伝統をふまえ、人間性豊かな日本人に、そしてまた国際的にも、世界の人々から敬愛される立派な日本人に育つことを願い、昭和五四年六月に結成されました。以来十八年、会員数も一二七〇名を越えるまでに成長し、微力ながら本県教育の充実発展に寄与してまいりました。

その創立趣旨に則り、本年度もまた、下記の通り支部講演会を開催致します。本年度は、講師として藤岡信勝先生をお招きすることができました。先生は、現在、東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授（学校教育開発学コース）として御活躍でございます。先生と先生が主宰する「自由主義史観研究会」のメンバーが執筆された「教科書が教えない歴史」（産経新聞社）がベストセラーになっています。

「戦後の歴史教育は、明治維新以降の日本を否定的にとらえる立場、いわば、『自虐史観』『善玉・悪玉史観』に立ったもの。我々はこういった視点から解放された立場から歴史を見直していきたい」と語られています。

直接、先生のお話を承ることのできるこの講演会を、盛大で、有意義なものにしたいと念願しており

ますので、何卒、多数ご参加くださいますよう御案内申し上げます。

記

- 1、期 日 平成九年二月一日（土）午後二時開会（受付は午後一時より行います）
- 2、会 場 メルパルク熊本 〒八六〇 熊本市水道町十五―十一
- 3、主 催 日本教育会 熊本県支部
- 4、後 援 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本県PTA連合会 熊本市PTA協議会
熊本県公立高等学校PTA連合会
- 5、講師・演題 「近現代史教育の見直し」 東京大学教育学部教授 藤岡信勝先生

市民団体の抗議行動呼びかけ

日本教育会熊本県支部講演会に対する取組についてのお願い

日本教育会熊本県支部という聞き覚えのない団体が、来る二月一日に支部講演会を開きます。この講演会は各学校の校長、教頭、教師やPTA教育関係者を参加対象としており、今回の講師は「自由主義史観研究会」の主催者としてマスコミにたびたび登場している藤岡信勝（東京大学教育学部教授）なる人物です。

この「自由主義史観研究会」なる団体は昨年夏以降、「中学教科書から『従軍慰安婦』記述の削除を要求する」ため文部省に対して、教科書会社記述訂正勧告を出すよう圧力をかけていることで有名です。

そして昨年十二月二日には、この藤岡氏を中心になって、中学教科書から従軍慰安婦記述の削除や反日・自虐史観に基づく教科書の見直しなどを要求する「新しい歴史教科書をつくる会」なる団体を、西尾幹二や漫画家の小林よしのりなどと一緒に結成して、まるで戦前の皇国史観とおなじような歴史認識を披瀝しています。藤岡氏はこの「自由主義史観」について「大東亜戦争肯定史観」にも「東京裁判史観」「コミンテルン史観」にも組み合わない「イデオロギーと無関係」な「実証的な歴史研究」などと標榜していますが、歴史を学び、常識的に判断する力があれば、この主張が復古調右翼の歴史観と寸分違わない代物であるということはすぐ分かるはずです。ただすこし違うところは、彼等の回りに集まっている「知識人」「有名人」がおおよそこれまでの右翼の運動と掛け離れた若い世代が多いということです。

藤岡氏らの運動は明らかに奥野誠亮や板垣正などの自民党タカ派グループ、一部の財界と連携しています。自民党が表に立って運動を作れば広がり作れない。そこでこうした新たな装いを凝らした別動隊を組織して、国民、とくに若い世代への浸透を狙っているのです。産経新聞、雑誌「諸君」「正論」「文芸春秋」そして、小林よしのりの「新ゴーマニズム宣言」を掲載している月刊『SAPIO』（小学館）などマスコミが、この「自由主義史観研究会」や「新しい歴史教科書をつくる会」の主張をそのまま載せ、大キャンペーンをはり、他方では昨年末、岡山県議会の『削除決議』や熊本市議会（取下げ）や熊本県議会（継続審議中）で明らかにになったように、自民党が「教科書改訂」の議会決議を全国運動として展開するという組み立てです。

このたびの日本教育会熊本県支部講演会では、その案内のチラシでも強調されているように、「近現代史教育の見直し」というテーマで、藤岡氏の言うところの『自虐史観』『善玉・悪玉史観』からの解放が目指されています。これは自民党や一部の反動教育関係者がねらう教科書からの「慰安婦問題」削除要

求キャンペーンと一体の物です。文部省ですら奥野誠亮らの是正勧告の申し入れにたいして「教科書検定基準に抵触することはない」（井上次官）と答えているにも拘らず、今度の講演会を県教委や熊本市教委、さらには熊本県PTA連合会、熊本市PTA協議会そして熊本県公立高等学校PTA連合会が後援団体となり動員をかけていることは大きな社会問題です。

日本が過去において侵略戦争を起こし、その過程で「南京虐殺」「七三一部隊」「強制連行・強制労働」、そして「従軍慰安婦」などの戦争犯罪を引き起こしたことは国際常識となっています。これらの事実を子供たちに伝える事を「自虐史観」と規定し、その中止を求める藤岡氏らの立場は明らかに日本政府の方針、文部省見解に反しています。このような集会へ教師やPTAを動員することは教育の中立性の原則に著しく違反する行為です。

つきましては関係諸団体への抗議と動員の中止の申し入れ及び記者会見を近日中に行いたいと思いますので、この趣旨に賛同される諸グループ、諸個人、団体を募りたいと思います。呼び掛け人として名前を出していただける方はその旨お知らせくださいませ。一月二十八日までに集約する予定です。連絡方法は電話、ファックスなどによる場合がありますがよろしく願います。

一九九七年 一月二十四日

事務局・連絡先 八代 石川 望（八代教会） 0965-32-3303

熊本 古沢千代勝 096-248-3565

熊本県教育委員会に対する抗議と要請

私たちは二一世紀を目前にして、日本とアジアと世界に生きている子どもたちが、健康で心豊かに育ち、幸せになることを心から願うものです。

そのためには、戦争と飢餓、貧困や差別などによって、子ども達の生命が虫けらのように奪われ、学校に通うことはおろか家を失い、親兄弟と別れさまよい、寒さと暑さにさいなまれ、一かけらのパンや一握りの御飯さえ口にすることができないようなことが決して起こらないようにすることが必要だと思えます。これは子どもたちの生命と人格、生きる権利に責任を負っている国と社会と大人たちのためまない努力によってのみ保障されます。

そのために、日本では子どもたちに対して、憲法と教育基本法、また一九九四年三月に批准された「国連子どもの権利条約」に基づく教育行政に、最も大きな責任と権限が与えられています。まさに、子どもたちの幸せと未来の保障にこそこれからの日本の命運が掛かっているのです。

このように教育行政に課せられた大きな責任を考える時に、熊本県教育委員会が来る二月一日の藤岡信勝氏の講演会の後援をして、その動員の後押しをすることは、時代の流れと国際社会の常識に逆行し、日本の国際的信用を失墜させる事になる大きな社会問題です。

なぜなら藤岡氏は「戦後の歴史教育は、明治維新以降の日本を否定的にとらえる立場、いわば『自虐史観』『善玉・悪玉史観』に立ったもの。我々はこういった視点から解放された立場から歴史を見直していきたい」と公然と語り、昨年十二月二日「新しい歴史教科書を作る会」を結成して、「中学校教科書か

ら『従軍慰安婦』の記述の削除を要求する」ため文部大臣に対して、教科書会社に記述訂正勧告を出すように圧力をかけている人物だからです。

藤岡氏は過去における日本の侵略と植民地支配など加害の事実を教えることが「自虐的・反日的」だといっており、戦争について「自国にたいする肯定的イメージに裏付けられた授業」をすべきだと強調し、「嫌悪感を持たせる事実」は教えるなど言っています。ところで、今日の受験体制の重圧下で、子どもたちは近・現代史を満足に学んでいません。そのうえ、藤岡氏の考える「自国に対する肯定的イメージに裏付けられた」歴史だけを学習することになったら、日本の子どもたちは、大人になってもアジアや世界中の人たちとともに付き合うことができなくなってしまうでしょう。

藤岡氏は全国を講演して回っていますが、どこの講演でもこの様な「自虐史観」からの解放や「従軍慰安婦」記述の教科書からの削除を求める発言などに終始しています。「新しい歴史教科書を作る会」が一月二日に文部大臣に面会し前述の要請を行ったとき、小杉文部大臣は「一九九三年の『慰安婦』問題の調査で、強制連行の一部に日本軍などが関与した事を認めており、教科書も、この政府報告に基づいて検定したもので問題はない」と藤岡氏らの「削除要求」をつっぱねました。藤岡氏の主張は政府方針にも文部省見解にも相反する極めて自己中心的主張と言わざるを得ません。

熊本県は国際交流も熱心に押し進めてきており、韓国・中国そしてアメリカなどに姉妹都市があります。子どもたちに国際感覚を育てる事は極めて大切な事です。それは一国の利益を優先する一国ナショナリズムを鼓舞する事とは根本的に相容れないはず。ところが、藤岡氏の考えはまさにこの一国ナショナリズムなのです。これを広めていけば必ず戦前と同じように、アジアと世界の民衆を敵に回すこととなります。こうした人物の講演会をバックアップした事が海外に伝われば、熊本県の国際的信用は

がた落ちとなるでしょう。

今回の熊本県教委の行為は

1、日本政府の方針と文部省見解にさえ反する、このような講演会を後援すること自体が非常識であり責任を問われる。

2、日本が過去に於て侵略戦争を起こし、その中で「植民地支配」「南京大虐殺」「七三一細菌部隊」「強制連行・強制労働」そして「従軍慰安婦（日本軍性奴隷制）」などの戦争犯罪を行った事は国際社会の常識となっており、これを「自虐史観」として切り捨てる藤岡氏の後援をすることは熊本県の国際的信用を失墜させる。

3、以上の事から判断して、熊本県教委の姿勢は、憲法と「国連子ども権利条約」および教育基本法の精神とその第八条、十条の中立性の原則に著しく違反し、慎重さを欠いている。

よって嚴重に抗議し、藤岡氏の講演会の後援を取り消すよう要請します。

一九九七年一月二九日

歴史を歪曲する藤岡信勝講演会に反対する市民の会

共同代表 古沢千代勝・石川 望

（連絡先）〇九六一二四八一三五五六

資料6

長崎県西彼杵郡琴海町議会に 地元右翼団体が出した請願書と 市民の抗議行動

中学校歴史教科書の是正を求める請願

1 請願の要旨

学校教育、特に義務課程における教育の主たる目標は「国家及び社会の形成者として必要な資質を養う」ところに在ります。しかるに、平成九年四月から使用される予定の中学校社会科歴史分野における文部省検定済み教科書七冊すべてに「慰安婦」問題をはじめとして事実を歪曲し、ことさらに自国の歴史を誹謗する様な、史実と相違する記述が多く認められることは、明らかに「学校教育法」(第36条)更に「教科用図書検定基準」(社会科)の規定に反し、本来の目標から外れていると申さねばなりません。

よって、文部大臣が「教科書図書検定規則」(第13条)の定めにより、各発行者に対して所用の訂正を申請するよう、すみやかに勧告されることを、貴議会の御意志として要望決議を賜りたく、地方自治法第一二四条の規定により請願いたします。

2 請願の理由

文部省の「義務教育諸学校教科書用図書検定基準」(平成元年四月告示)には、各教科共通の条件としてその正確性を求め、

(1) 図書の内容に、誤りや不正確なところ、相互に矛盾しているところはないこと。

(2) 図書の内容に児童、生徒がその意味を理解するのに困難であったり、誤解したりするおそれのある表現はないこと。

また「社会科」の条件としては、

(4) 未確定な時事的現象について断定的に記述しているところはないこと。

(6) 著作物、資料など引用する場合には、評価の定まったものや信頼度の高いものを用いること。と定めてあります。

ところが、来る平成九年四月から使用される予定の中学校歴史教科書には、上記の検定基準に照らせば、七社・七冊の教科書すべてに「慰安婦」問題をはじめ明らかに事実と相違し、或は評価が未だに定まらず、信頼度の極めて低い記述のあることが、歴史の専門家ほか多くの識者たちにより、具体的かつ客観的事実を基に数多く指摘されているところであります。とりわけ「慰安婦」の記述は、生徒たちがその意味を理解するのに困難であったり、誤解するおそれのあることが充分に認められ、教育上むしろ有害であると申しても過言ではありません。

従って、これら七冊の教科書を発行する七社すべてが誤った記述の存在を認め、削除を含む所要の訂正を行うよう、文部大臣が各発行者に対しすみやかに訂正の申請を勧告されることを、貴議会にて要望ご決議のうえ、担当大臣に対する意見書をご提出下さるよう、茲に請願申し上げる次第であります。

平成八年十二月六日

琴海町議会議長 濱本 政暉様

請願人 長崎県教育問題協議会 代表 梶山 茂

全国の仲間のみなさんへ

これは、長崎県西彼杵郡琴海町議会に地元の右翼団体が出した「中学校歴史教科書の訂正を求める」請願書です。この請願は、昨年十二月の町議会で継続審議にされましたが、長崎県の仲間によれば、今月5日と21日の同議会文教厚生委員会で改めて審議され、三月議会で採択される見通しとのことです。2月21日（金）の文教厚生委員会は、午後3時からです。傍聴については、委員長が他に勤務があるため、願いがあれば勤務先に電話して許可を得るという手続きになっています。

琴海町には、国粹主義宗教団体「生長の家」の総本山があり、同地は右派勢力の「教育正常化運動」の震源地です。

長崎の仲間たちはこの請願書の採択を阻止する努力をすでに始めましたが、全国の仲間が琴海町議会の議長宛に請願書の採択に反対するFAXを集中するよう期待しています。どうかその思いに、至急、こたえてください。またこの文書をお知り合いに次々に転送して下さい。

琴海町議会のFAX 0958-86-3937 議長 濱本 政暉

TEL 0958-85-2111

◎FAX・TELとも、町役場と同じ

〔備考〕 琴海町議会に提出された右翼団体の文書は、新潟県議会、同県栃尾市議会、鹿児島県議会など

に提出されたものと同じで、昨春秋「日本を守る国民会議」（議長・黛敏郎）が全国に配布したものと思われます（但し、どこでもこれと同じものが提出されているわけではなく、別種のものもあります）。同会議と「生長の家」は活動をともにするケースが多いので、右派勢力は琴海町議会での採択に非常に力を入れていると見ていいでしょう。

地方議会2～3会期の攻防がついに始まりました。互いに力を合わせて危険な動きを阻止しましょう。

◆長崎の仲間への連絡については、次のところに、必ずFAXでお願いします。

FAX 0958-50-6431 舟越 耿一（ふなこえこういち）

資料7 女性団体による「新しい歴史教科書をつくる会」への抗議書

私たち売買春問題ととりくむ会は売春防止法を獲得した団体の後身組織で、近年は日本軍「慰安婦」問題にもとりくんできました。

「新しい歴史教科書をつくる会」創設にあたっての声明を拝見しましたが、「慰安婦」問題についての見解に同調できません。

声明では、証拠不十分のまま「従軍慰安婦」強制連行説をいっせいに中学歴史教科書に採用したと非難しておりますが、植民地下、占領地下の女性たちの多くが強制的に日本軍の性奴隷にされたことは紛れもない事実です。それは犠牲者女性たちの証言でも明らかですし、また一九九三年八月四日の政府による第二回調査発表時の河野官房長官談話は「その募集、移送、管理等も甘言・強圧によるなど、総じて本人たちの意思に反して行われた。……政府は、この機会に改めて、その出身地のいかに問わず、

いわゆる従軍慰安婦として数多くの苦痛を経験され、心身にわたり、癒しがたい傷を負われたすべての方々に心からお詫びと反省の気持ちを申し上げる。……歴史研究、歴史教育を通じて永く記憶にとどめ同じ過ちを繰り返さないという固い決意を改めて表明する」とありました。

次代を担う子どもたちは事実に基づく歴史を学ぶことが必要です。自国の歴史に誇りと責任をもつためにも、あやまちは謝罪し、再発防止をはからねば、今後の国際社会にも通用しません。「慰安婦」問題はすでに国連人権委員会できとりあげられ、アメリカ司法省は七三一部隊と「慰安婦」問題にかかわった者の入国禁止措置を発表しました。

日本の戦後責任のとり方がいま問われており、内外の注目をあびています。「新しい歴史教科書をつくる会」の方針では、日本社会の人権感覚が疑われ、国際社会において名誉ある地位を占めることはできません。貴会の誤った歴史認識を事実と照らしあわせ、改めるよう抗議します。

一九九七年一月七日

売買春問題ととりくむ会

あけぼの会 日本キリスト教協議会女性委員会 救世軍 日本キリスト教婦人矯風会

新日本婦人の会 日本青年団協議会 全国地域婦人団体連絡協議会 日本婦人会議

全国婦人相談員連絡協議会 日本婦人団体連合会 全国婦人保護施設連絡協議会

日本婦人有権者同盟 東京キリスト教女子青年会 婦人民主クラブ 東京婦人相談研究会

「新しい歴史教科書をつくる会」各位



朝まで生テレビ

「従軍慰安婦問題と歴史教育」

（テレビ朝日 一九九七年一月二日午前一時～五時放送）

まずは冒頭、各パネラーが自分の基本的考えを述べているので、なるべく忠実にテープを起こしてまとめたものを紹介する（発言順）。

西尾 幹二（電気通信大学教授）

（検定済み中学教科書の中国人虐殺の絵を見せて） こういうことがあつたかなかつたかはわかりません。しかしこれはしよせん／＼絵です。こんなサディスティックな絵を十二歳から十五歳の子どもに見せることが妥当かと、国民の常識をここで仰ぎたいと思いますが、驚いたのは、これと同じ絵がすでに小学校の教科書にも載っていることがわかりました。もう一つのイラストをお目にかけます。これは四社の教科書に使われているものですが、文章を読んでみてください。

「左の絵を見てみよう。女『暗くてお靴がわからないわ』客『どうだ、明るくなつたらう』」

料亭の玄關らしいところで客らしい男が玄關先で自分の靴を探すために右手に持った百円札を燃やしている。そのころの百円は今の二十万円くらいに当たる。このお客はどんな人なのだろうか」

確かに世の中には馬鹿な人がいます。しかしこれが日本の資本主義を代表する人物でしょうか。これでは下品すぎませんか。このようなものを四社もが採用しているという知性のレベルの低さが教科書全体に通じているということを指摘しなければならぬと思います。

まだまだ残酷な絵、馬鹿馬鹿しい絵がたくさんありますが、一月二十一日に文部大臣にこのような絵をお見せしましたところ、「これが本当に検定を通つたのか」と愕然としていました。もつともあとで訂正されて、「そんなことを言つたことはない」という文言が来しましたけれども。

現在の近現代史のあり方には、根本的にいくつかの欠点がある。侵略戦争であつたとか、歴史にあまりにも倫理的評価を持ち込みすぎていると思います。歴史は道徳ではありません。歴史はある面で善悪の彼岸に立つという一面を持っています。たとえ結果が悪であり失敗でも、道徳で割り切つては

いけない。冷徹な時代の必然を認識する目を育てることが歴史教育になくてはいけないと思います。ところが、それが実に簡単に現在の価値基準をもつて切り捨てられているために、明治国家そのものが悪であって、日清・日露戦争は侵略戦争だというようなとんでもない歴史観が七社の教科書に共通している。そこで私たちは、国民に常識を訴える国民運動を開始しました。昨日会は発足しまして、二〇三名の賛同者をいただいています。ダイエー・ホークス監督・王貞治さん（注・王氏はあとで否定）、巨人元監督・川上哲治さん、日本相撲協会・境川理事長……など、皆さん穏健な、常識に立脚した方ばかりです。「従軍慰安婦」の削除はこの会の直接の目的ではありません。新しい歴史教科書をつくる、そして私たちの新しい教科書には「従軍慰安婦」は一行たりとも書くことはないでしょう。

吉見 義明（中央大学教授）

私は歴史の事実を直視するということが非常に大事だと思うんですね。それは先ほど「善悪の彼岸に立つ」とおっしゃいましたけど、日本にとって辛いことであっても隠すのではなくて、事実をきちんと見ることによって歴史認識を鍛えて

いくことが必要だと思うんです。そういう意味では「削除しろ」というような行き方は邪道だと思っております。事実に基づいた討論が今日できればと、期待しております。

上杉 聡（日本の戦争責任資料センター事務局長）

西尾さんは、教科書に「嘘を書くな」とおっしゃっているのか、あるいは「嘘でもいいからバラ色に日本を描け」とおっしゃっているのかよくわかりません。もし「嘘を書くな」ということであれば、例えば慰安婦の問題について、私たちは四年間たいへん多くの研究を積み重ねてきています。吉見先生を中心にそういう積み重ねがあるわけですね。また海外のさまざまな研究者やボランティアが参加して、多くの資料を発掘してきました。我々が今日テレビ番組に出るに当たって、「こういう議論に組するべきではない。我々は研究中心だから論文で勝負すべき」という批判もあります。しかし、今までの経験から言って、研究のレベルと世の中の風潮はちよつと別のところにあり、それが変な形で流れていく危険性があるわけです。そういう意味で、今の風潮に対して「そうではない」と言うことにも責任があると思ひまして、出てまいりました。事実をどう捉えるかということで、議論を

したいと思います。

西尾 これは事実なんですか、これは 終 です。

上杉 少なくとも、中国の人たちがそのような目で日本を見ていたのは事実です。それから、子どもたちに「嘘でもいいからバラ色に教えろ」というのは、教科書でも教育でもなんでもない。今日は事実を中心にした議論にして下さい。

西野瑠美子（ルポライター）

今お話の中で「残虐なこと、下品なことをなぜ教科書に載せるのか」というお話がありました。だけどあの時に「残虐なこと、下品なこと」がなかったのかということ、そこに目を向けてほしいと思います。子どもたちは過去に何があったのか、事実を知る権利があります。大人は過去に何があったのか教える責任があると思います。私は慰安婦問題に長い間向き合ってきましたけれども、日本はやはりこの慰安婦問題を克服しなければならぬと思います。克服するためには歴史を忘れない、事実を事実として継承していくということが大事だと考えます。

梶村太一郎（ベルリン在住ジャーナリスト）

私はベルリンに長く住んでいまして、子どもたちはドイツ

の教育を受けています。そこから今の西尾さんたちの動きを見てみると、これはいったいどの星のことだろうと思います。あなたがたが言っているようなことは、ドイツでも実はあったんです。十年前に。歴史修正主義というんです。要するに歴史の改ざんです。それをこの日本でまたやっているんです。ドイツではあなたがたが言っているような、慰安婦だとか戦争の犠牲者に対するキャンペーンをやったとしたら、知識人としてはまったく市民権を得られない。それどころか、犠牲者の尊厳を傷つけているわけです。《常識》ということをや西尾さんはおっしゃいました。これはあなたの常識かもしれないけれども世界の常識ではありません。あなたがたが作った教科書で若者たちを教育するということは、日本を破滅に導くものです。

高嶋 伸欣（琉球大学教授、元教科書執筆者）

今は大学におられますけれども、一年前まで三十年近く高校の教師をしておりましたので、その立場から発言します。ここ二、三年の藤岡さんたちの問題提起のようすと最近の動向を見ていきますと、これは教育問題なのだろうか？という疑問をますます強く持っています。教育にいろいろ問題がある、

そして特に教科書が問題と言われているんですが、その当事者に問題提起がなくて、いきなり「政治問題」、政治家という結びついて「国民運動にします」という方向に今蔭進しているわけですね。大人の社会で問題にされるのなら、最大の当事者は教科書を書いた人なのだから、その人たちになんて最初にストレートに「これは問題ではないですか」と提起しなかったのか。そして実際には、その教科書が学校の現場でどう使われるかが、一番最後に判断が分かれるところなんですから、現場の先生方がどう使うかという現実在即した議論をしていただきたいのですが、それがまるでない。それから今回は中学校の教科書が議論の対象になっていますから、中学生の意見もぜひ聞いて十分議論していただきたい。中学生なら、私たちが学ぶくらいの鋭い指摘をこれまでにたくさんしてくれている。それをせずにこういう議論をされるのには、何か別の意図があるんじゃないかと私は思います。

私はやはり教育に対して責任を持ちたいと思います。というのは、高校生に対して戦争に至るまでどういう経過をたどってきたか説明したときに、やはり戦前の教育にたいへん問題がある、と認識として一致しました。「あの頃の大人が

すっかりしてくれていたら」という言い方をされたんですが、それを十年二十年後に今度は私たちが言われる番になるかもしれない。この際ぜひ責任を全うしたい。

尹 健次（神奈川大学教授、在日朝鮮人二世）

冒頭、「新しい歴史教科書を作る」と、その際従軍慰安婦は「一行たりとも書かない」と断言された。当然それは「従軍慰安婦はなかった」あるいは「あつたとしても、教える必要はない」ということを意味されているわけですね。常々〈自由主義史観研究会〉とか〈新しい歴史教科書をつくる会〉というところは「日本人の誇り」ということを強調されているわけですけども、これは私から見ると「日本人の誇りを傷つけるもの」というふうにしか取れない。私は在日朝鮮人の一人として今日出ておりますけれども、こういう最近の動きに在日朝鮮人は非常に敏感になり、危機感を抱いています。在日朝鮮人は日本の朝鮮侵略の結果「日本に住まざるをえなくなつた」朝鮮半島出身の人たち及びその子孫というふうに考えていいと思いますけど、若い人たちの間では、「憂慮する在日朝鮮人のアピール」というものをつい最近出しました。現在は従軍慰安婦を取り上げておっしゃっているんですけ

ど、つまり「自分たちに気に入らないものはずす」、自国の「正史」というものをつくりあげるということを強調されている。これはおかしい。「正史」正しい歴史というものは、古今東西「国家の権力を握る者」あるいは「自分の正当性を主張する者」が作ろうとするものです。「自由主義」という、あたかも国家とは関わりがないというふうに主張する人が「正史」ということばを使う、これはやはり「国家主義」でしかないと思います。私は在日朝鮮人、あるいは朝鮮半島に住んでいるすべての人たちを代表する立場にはありませんけれども、こういう日本近代史の誤った、過去の清算をしないで忘れ去るような歴史観を流布し、そういう教科書で新しい世代を教育していいこうということを、私は断じて許すことはできない。

下村 満子（ジャーナリスト、アジア女性基金理事）

アジア女性基金のことは最初には申し上げませんが、私は「いい教科書をつくる」ということにはまったく反対しないんです。それから「パーフェクトな」教科書というものはないと思うんです。ですからいろんな人の目でチェックされ、よりよい教科書を作っていく努力は常にされるべきだと思います。

ます。

じゃあどういう教科書が「いい教科書」か、それから「常識」ということを西尾先生はおっしゃいましたけど、「常識」とはいったい何なのかと、その辺で違ってくるような気がします。「自虐的」ということばが最近盛んに出るんですが、私は自分の国が犯した過ちを議論したり書いたりすることがどうして「自虐的」なのかわからないんです。何よりも人間の誇りというものは、自らの誤りを誤りとして正し、その事実と向き合い、辛いことであつてもきちつとそれを受けとめて客観的に総括し、再び過ちを犯さないということをきちんとする人間こそ誇りを持てるのであつて、やらないのは恥ずかしい。むしろそのほうが誇りを失わせるんじゃないかと思うんです。

ただ、極端にブレて日本は世界でもっとも残虐な国民だと言うつもりは私はないし、日本は有能な国だし、普通の人間集団なんです。しかし一方で日本は絶対に過ちを犯さない、もっとも優秀な民族だと、もし誇りとして思い込むなら、これも私は許せない。いろんな意味でバランスは大事ですが、事実は事実としてきちつと認めるという原点に立ち返った教

育が正しい教育と思います。例えば従軍慰安婦の問題を教科書に書くことが、なぜそんなに誇りを傷つけたり自虐的なことなのか、私には理解できないんです。

西岡 力〔現代コリア〕編集長

あったことをその通り書くことについては、私はまったく賛成なんです。実は従軍慰安婦の問題が表に出たときに、私は取材に行きました。ソウルに行き、運動体の人たちに会い、政府の関係者に会い、まったく事実ではないことが事実として広められていることに對してたいへん危機感を覚えしました。その結果、韓国の人たちが現在どう思っているかということ「日本は韓国でアフリカの奴隷狩りのようなことをして従軍慰安婦を買っていた」——これが韓国政府の見解です。

また「十二歳の小学生を従軍慰安婦にして性の奴隷にした」と韓国の新聞が社説に書いていますが、未だに訂正が出ていません。「赤ん坊を抱いているお母さんをその場で連れてって強姦して、従軍慰安婦にした」と、これも韓国の新聞が書いています。ですから韓国の人たちはそのことを事実だと大多数の人が思っている。私はそれは事実ではない、ということを取材しています。

ではどうしてこんなことが起こったのか。私の取材によれば、日本人が「お金があるから裁判しませんか」と言つて火をつけたんです。以前、李承晩政権の時に日本にたくさんのお金を請求しようとしたときにも、この問題は出ていません。私はそのことを本に書きました。そうしたら、日本に徴用されたと言つて裁判している人が会いたと言つてきて「お前の書いたものは正しい。慰安婦狩りはなかった」と言われました。私の会った範囲ですが、六五歳以上の韓国人はほとんど、野党の政治家だとか大新聞の編集局長経験者だとかが「お前の書いていることは正しい」と言つてます。ものすごいコミュニケーション・ギャップがあるんですね。

長谷川 潤（大阪府公立中学社会科教師）

先ほど高嶋先生が「学者先生は現場の教育のことを知らない」とおっしゃいましたが、私もそう思います。ただその時に、教育者は嘘ついてはいけないというのが基本だと思うんです。嘘というのは、意図的な嘘と結果的な嘘と両面があると思います。何かを教えるときに結果的に嘘になつてはいけない。ですから我々は嘘を教えないということを追求していかなければいけないのに、現実にあちらに座つてらっしゃる

方々とこちらでは、事実認識が違うんですね。解釈の違いならしょうがない。でも事実に対する認識が違えば、もし私が片方を事実として生徒に教えれば、二分の一の確立で嘘をついたことになるんです。絶対にこれが正しいと、客観的には言えないですから。

今従軍慰安婦のことが教科書に載ったわけですが、「従軍慰安婦」ということは自体が正しいかどうかという意見もある。そうすると、教科書通りに「従軍慰安婦がかわいそうな目にあった」と教えたら二分の一の確立で嘘をついてることになる。だから我々は教育者の原点から言えば、あいまいなことは教えてはいけない。もしどうしても教えるなら、従軍慰安婦は強制的に内地や南方に送り込まれた、しかしそれを「事実ではない」という意見もある、という両論ならまだいいと思います。しかしこれをやり始めたら、例えば前見た映画でソフィア・ローレン主演でナポレオンの軍隊についていく娘子軍が主役になったこともあります。アメリカの進駐軍に対してパンパンと呼ばれる日本人売春婦もありました。軍隊あるところに売春婦あります。南方に行った慰安婦をもし載せるなら、パンパンや娘子軍もいっち教えなければならぬ。

これでは授業は成り立ちません。私らは一年間に百数時間しか授業時間はない。そんなに売春のことばかり教えてどうするんですか。あいまいなことは私は教えられない。

小林よしのり(漫画家、「ゴーマニズム宣言」作者)

事実を曲げて教科書に書くのかとか、ぜんぜん思ってます。事実は事実として書けばいいんです。わしは少なくとも慰安婦はいなかったとか、慰安所はなかったとか、軍の関与はなかったとか、そういうことは一切言ってません。軍の関与はあったんです。軍の関与がなんで悪いんだと言ってるわけです。関与の仕方っていうことを自分で資料を見たら、見た結果、今後歴史の中で子孫に向かって、「性奴隷」と言われるようなものを日本軍が持っていたという事実はなかったと言いたいです。

藤岡 信勝(東京大学教授、自由主義史観研究会代表)

二年前に私どもの研究会で、「南京事件」について両サイドの学者を招いてパネルディスカッションを行なったんですけれども、その時に秦先生においていただきました。終わってから「これから従軍慰安婦の問題が大きい問題になっていくはずだから、次のテーマとして取り上げたらどうだ」と示唆

されたわけです。私は南京事件の資料を読んでいて、嘘とわかっていてもひどい話がたくさん出てくる。それに加えて従軍慰安婦では、とても神経が持たない、考えたくないというのが率直なところでした。ところがその一年後に中学校の歴史教科書七社全部に一齐にこのことが載るという事態を、私はまったく想像できませんでした。まさにイヤなことから逃げていたのだと、反省しました。私は慰安婦のことは、全体を通じてデマ、虚構だと思っています。これが中学校の教科書に載ることを許してしまったのは、私どもの大きな油断だったと思います。これに対しては一切妥協せずに言論で闘いたいと思っています。

西尾 梶村さんの話は、最初からドイツと日本が戦った戦争と運命とその歴史的経緯あるいは体験は同一であるという前提に立っています。日本の歴史にはホロコーストはなかったし、ナチスはなかったという前提に立って、歴史的に世界の各国が行なってきた通例の戦争犯罪を犯す戦争国家、そういう意味では戦勝国もまた戦争犯罪を犯している。そういう見地に立って事実というものを考えたときに、慰安施設が存在し、軍の管理下に置かれ、軍の庇護によって経営されていたとい

うことを私も否定するものではありませんが、これは世界中どこでも行なわれたことです。ドイツにも約五百か所の戦場地慰安所があつて、東ヨーロッパではほとんどが強制連行であつて、すさまじい性犯罪があつた。ドイツの管理売春の徹底は、第一次世界大戦の教訓に立って性病の蔓延を防ぐために行なわれた。ヨーロッパではすごいことが起つていんです。アジアの比じゃない。しかしドイツでは外国人慰安婦、占領軍慰安婦に対する補償だの謝罪だのなんて話はあがない。あがつているのはごく最近、九四年です。九四年に日本と韓国で騒ぎがあると聞いて、女性の悲劇はドイツにもあると、ドイツ左翼の一部が日本と韓国の影響を受けて問題に始めたんです。それくらいナチスの巨悪の前には、この程度のことは影がかすんで見えなくなってしまうんです。

秦 邦彦 (千葉大学教授)

私はどこの国の歴史も光と影があると思うんです。これをどういうふうに扱うかは、教科書を書く人の意識もある。そういう観点から見ますと、私は七社全部の教科書を見ましたが、いわば影の部分が主になっている。私はなにも栄光ある部分だけを書けと言つてゐるわけじゃないし、いろんな教科書

があつていいと思う。私が西尾さんの会に賛同したのも、そういう教科書もあつていいじゃないかということで、選択の自由。その中に慰安婦を書くか書かないかは教科書を書く人の自由です。

ただ私の個人的な考え方では、高校の教科書ならともかく、中学だと、私は品格という面から載せるべきではないと。課外でやるのはかまわないし、図書館へ行けばいろいろ本があります。今は小学校にも載せようという動きもあるそうですね。これはもう常識の問題だと思えますよ。実際問題として、おそらくは歴史始まって以来はじめて慰安婦のことが教科書に書いてある。これは売春婦ですよ。じゃあ韓国の教科書に出てくるのか、出てない。ドイツの教科書にもアメリカの教科書にも出てない。日本の教科書だけでも出さなければいかなのか、そこに疑問に感じます。

デープ・スペクター（放送プロデューサー）

初めて慰安婦と売春婦をまったく同じと言う人を見ましたね。びっくりしました。ほんとに目の前でこれだけの狂信者が話してくれるのは光栄というか、来てよかったと思いますよ。西尾さんは何言ってるかよくわかりません。藤岡さん

も、あなたの動機は不純です。何のために旧日本軍を弁護したいのかわからない。要するにあなたたちは日本のために、教科書にカムフラージュして歴史をやらわらくしたいんでしょう？ 不利なことも入れたくない。そのことが逆の効果を生んでいることに気づかないんですか？

梶村さんはヨーロッパに住んでいるから僕よりわかると思うんだけど、南京大虐殺否定などの発言や、馬鹿な政治家の失言がどんなにダメージを与えているか、どんなに日本が後向きの国になっているか、気づいてないんでしょう。

一部の報道によると、たいへんなバックがあるんじゃないですか、組織的に。自民党のタカ派議員とか（否定の声）。なんでそうまでしてやるのかわからない。吉見先生の発掘した資料を見るだけで、良識のある人は納得しますよ。

*

冒頭発言から見ても、各パネリストの立っている場所は一目瞭然である。以下、「慰安婦」掲載賛成側（吉見氏等）を〈賛〉、反対側（藤岡氏等）を〈反〉とする。

議論のキーワードは「事実」と「常識」。前半は「事実」、つまり「慰安婦」の軍による強制連行（軍の関与）はあったか

なかったか、後半は「常識」、中学校教科書に掲載する是非を問う議論となった。ここでは主に前半、〈賛〉と〈反〉がどのような資料を裏付けとして出し、どのように反論したかについて記述する。

信憑性をめぐる争点

〈賛〉 現実に数々の文章や証言がある。フィリピンの慰安所で軍が業者に対してつくった慰安所規定（慰安婦の外出は厳重にとりしめるように・散歩の時間や外出場所も規定）。未成年者の連行記録（国際条約で21歳未満の女性を海外に連れ出して売春させたら罰せられる）。前借金によって女性を拘束、就業詐欺（看護、食事などの仕事と偽って連れてくる）、拉致、誘拐などによる連行、業者を軍が選定、半強制（朝鮮総督府による割り当て、軍が地元の有力者におしつけるなど）、官憲による奴隷狩り的なもの……の記録等々。

〈反〉 慰安婦がいたことは事実だが、政府や軍が「強制連行した」司令文書が出てない。強制連行目撃者、実行者の証言がない。元「朝鮮総督府」勤務の人の投稿によれば、住民の

間に「慰安婦強制連行」がもしあれば起こったはずの暴動や不安はなかった。慰安婦本人が「強制連行された」ような発言をしているが、裏付けがない。

〈賛〉 慰安婦本人の証言（挺身隊問題協議会調査）によれば「強制」26%、「騙された」68%。千田夏光氏の著書『従軍慰安婦』での朝鮮半島現地調査（数百人のインタビューで実証的な資料）によると強制的意味合いが強まったのは一九四三年前後。藤岡氏たちは当事者の話を「信憑性がない」と断じるのはなぜか。目撃者がいれば信じるのか。

〈反〉 韓国の挺身隊問題協議会と挺身隊問題研究会が資料を作る際、矛盾した証言をしている人が多いから四十人のうち十九人だけ採用。官憲による強制連行は四人。うち二人は富山と釜山に連れていかれた。内地に「従軍」はおかしい。また、うち提訴している二人は資料内の証言と訴状の内容が違う。挺身隊として募集したか疑問。

〈賛〉 関東軍が朝鮮総督府に二万人集めるように依頼し、八千人を集めて送ったという関東軍参謀原中佐の証言がある（千田氏、島田敏彦『関東軍』）。

〈反〉 原の部下の証言では、業者がプロ売春婦を集めたとなっ

ている。名乗り出ている慰安婦の中にもこのケースはない。

また、千田氏に原氏が証言したか疑わしい（原氏は当時の所属課を間違つて証言している。千田氏は島田氏の本をタネ本にした）。

《賛》朝鮮総督府の資料がまだ出てないので、挺身隊といつわつて募集したかどうか、戦争末期の状況はまだ断定できない。日本政府に資料があるはず。自治省には戦前の内務省の資料が六千メートルもある。外務省にもある可能性。業者を軍や警察が選定していた証拠として、昨年十二月に警察大学校から内務省警報局員が一九三八年十一月に作った文書「支那渡航婦女に関する件伺」が出た。日本と台湾総督府のケースである。第二十一軍が慰安婦を集めるために参謀と陸軍謀報課長が内務省警報局に慰安婦を集めて欲しいと要請し、内務省は五府県の知事に指示、選定された業者は「自発的に集めたように」見せかけるよう指示している。

《反》送られた女性たちの生活は奴隸的とは言えない。慰安所には外出・通信・面接・廃業の自由はなかったと言うが、米軍の報告書によるとビルマで借金の返済が終わった朝鮮人慰安婦の一部は帰国できた（吉見氏も書いている）。米軍の尋

問では買物やピクニックに行けたとのこと。台湾人慰安婦が故郷に送金したケースもある。

《賛》外出は嚴重に規制され、許可制だったから自由ではない。年期明けまで辞められないから廃業の自由はない。

《反》連合国など第三者の調査は客観的で信憑性がある。彼女らは蓄音機も持っていたし、運動会にも参加した。性奴隸というイメージではない。

《賛》同じ資料に「彼女たちは一つの部屋に閉じこめられ、そこが寝起きの場所であるとともに兵隊の相手をする場所だった」とある。

《反》「個室のある二階建ての大規模家屋に泊まっていた」とある。悪い環境ではない。

《賛》「生活及び労働」の項で家屋の紹介があるが、これは軍が接収して慰安所に改造したもの。米軍にはそれはわからなかった。

《反》彼女たちは「欲しい物品を購入するお金はたっぷり貰っていた。暮らし向きはよかった」とある。

《賛》彼女らは米軍から尋問されて、軍の戦争犯罪として問われている。グアムでは軍が強制売春として処罰されている

から、この尋問に対する答えがすべて事実とは言えない。

〈反〉 本人たち全員が嘘をついているはずがない。

〈賛〉 慰安婦は公娼制度の延長で「売春婦」であるというのが〈反〉の主張だが、日本の公娼制度も「奴隷制」であると政府自身認め、明治五年に娼妓をすべて解放している。そのあと「身売り」ではなく前借金返済の「契約」という形で一八七〇年以降続いたが、一九〇〇年判決でそれも否定され、自由廃業できるよう法が変わった。返済できなければ廃業できないというのは奴隷制度。

〈反〉 植民地でその法令が適用されてなかったことは認めるが、軍が「奴隷狩り」をしたということではない。

〈賛〉 「奴隷狩り」ではなくても騙されて慰安婦に「させられた」人は多かった。その人たちを「売春婦」と言うのか。撫順戦犯管理所の戦犯罪行供述書に「強姦所設置と中国・朝鮮人拉致監禁」とあり、女性を拉致した過程が克明に記されている。証人の名前も書いてある。これは中国側では公文書である。

〈反〉 拘禁状態で戦犯として書いたものだから、そんな証言は信用できない。その戦犯は有罪にならなかったのか。

〈賛〉 免訴になった（注・撫順戦犯管理所で処刑された戦犯はいない）。こういう文書は今回初めて出た。以前に兵士五十人をこの番組に呼んだ時、生体実験の経験者でもある元軍医が「従軍慰安婦問題は天皇の軍隊による計画的な集団的強姦事件である」と書いて渡してくれた。また、衛生師団の書記だった戦犯が「強姦集計表」も作っている。これは「慰安所に通った回数」を示している。ほかに国会図書館に残っている元兵士の従軍体験記を調査して様々なケースを発見した。

*

資料を元にした論議はこのくらいで、後半は歴史認識の違いと、教科書掲載の是非についての論議にうつる。これについては冒頭の各人の意見ですでに語られていることなので、あとはその繰り返しにすぎない。

資料に関しては〈賛〉の方が〈反〉より豊富に出しているし新発見資料もある。〈反〉は〈賛〉の資料の不十分さを指摘することで自らの正当性を主張するという論法を使っている。ここで指摘したいことは、〈反〉の中心人物と目される藤岡氏が前半ほとんど発言していないことで、〈賛〉の吉見氏が新発見資料を駆使しているのとは対照的である。藤岡氏は実

は歴史学者ではなく、教育学が専門であり、歴史専門の吉見氏と資料論をするには初めから無理があるのだと思う。〈反〉にとつては尹氏が指摘するとおり「事実であるかないか」よりは「どう歴史認識すべきか、(児童生徒に)させるべきか」の方が重要なのである。

番組に寄せられた五〇八本の電話の内訳は、教科書に「慰安婦」を掲載することに賛成二五七(50・6%)、反対二一〇(41・3%)。この番組を見た人だけの動向だが、反対が意外に多いということを心に止めておく必要があると思う。いずれにせよ〈反〉が「国民運動」を開始したことによって「教科書に慰安婦問題が掲載される」ことは大きく宣伝されてしまい、すでに知ってる中学生も増えたことだろう。四月からこの教科書が使われることは紛れもなく事実である。先生方が現場でどう教えるか、高嶋氏が言うように、本当はそれが一番大きい問題だと思う。(まとめ・芦澤礼子)

『視聴した人の感想から』

◆事実に基づく史実を学べるようになるのに私たち日本人は五十余年の歳月を費やさねばならなかった。権力者による戦後の歴史は、戦後すぐにアジア各国における加害の歴史を焼

き尽くしたところから始まったのだから……。そうしてやっといま痛恨に耐えながら持続する意志の力と努力によって、正しく認識しようという地点にやっと漕ぎつけたのだ。

しかし同時に日本社会は、教育界にも「妖怪」を生み育てていたことを知った。今夜はじめて妖怪たちの正体を見たりであった。事実をなかったことにする欺瞞の上に立つ「誇り」とは一体何なのでしょうか？

妖怪たちの表情、罵倒、ことば、思わず露呈してしまう実態は人間ではない。下品を通り越し、こっけいでさえあった。売春婦、パンパン、インドネシアを賄賂の国と称するなど、女性やアジアへの蔑視の本質をかくしようもなかった。慰安婦にされてしまった女性たちの五十年以上の悲しみの深さなどに對して、想像力のかけらすらない。

彼らによって、吉見さんや尹さん、西野さん、下村さんがその真実のうつくしさをきわだたせていたし、高嶋さん、梶村さん、上杉さん、デーブが存在下いっしょにさることがどんなに心強いことであつたか！

『犯す側の論理』をまかりとおすことはもう許さぬゾ。

(藤田えり子)

◆人が発言しているのに大声でさえぎって発言するのはほとんど「反」。それだけでも正体が見えた。テレビならではの効果。

(石田まり)

◆国家や軍部が先頭に立って、組織的に慰安婦制度を作ったことは明白な事実です。事実を事実として認めず、なかったことにしてしまおうとする彼らのキャンペーンは、女性の人権に対する悪質な攻撃だと思います。「従軍慰安婦」イコール「売春婦」とする彼らの視点は、まさしく女性を戦争遂行の道具として扱った国家・軍部の視点であり、未だに女性をモノとしか見ていない彼らの姿を浮き彫りにしています。テレビを見ていて彼らの姿が女性に襲いかかる暴力的な男性の姿にダブって見え、気分が悪くなりました。

慰安婦制度が女性に対する暴力の究極の形であるから、こんなにも女性たちが問題にしているのだということを、彼らは全くわかっていません。何も言えず死んでいったたくさんの被害女性たちや、長い間心身ともに勇気をもって名乗り出られた被害女性たちを、何度レイプしたら気が済むのでしょうか。こんなキャンペーンを許していたら、明るい日本どころか、まっ暗な日本になると思います。

(加藤喜代美)

◆「反」から吉見氏に対して「慰安婦オタクじゃないの」というヤジが飛んだ。学者は研究をするから学者なのであり、研究は任務だ。それを「オタク」という彼らは学者ではないのだろうか。それとも彼らは地球物理学の専門家を「地球物理オタク」とでも言うつもりなのだろうか(ちなみに吉見氏は毒ガス戦分野にも詳しく、慰安婦だけの専門家ではない)。人間の品位とは、こういうところに出るのだろうか。

下村氏が最後に「この議論は犯す側の論理で話されている」と語ったのが印象的だった。不可能だとは思いますが、パネラーの一人として元「慰安婦」の女性がいたらどうだったのだろうか……と思った。

(芦澤礼子)

◆話し合うことによって何かが生まれるのではなく、互いの溝が深まるのが残念だった。「強制」であろうとあるまいと、心身深く傷ついた女たちがいたのは事実。女で自らを癒すほかなかった兵がいたのも事実。二度と戦争をしないためにが必要かを話し合う番組もお願いしたい。(斎藤千代)

※「生テレビ」に関する感想をお寄せ下さい。社会科学教師の方、学生の方、中学生を持つお母さん……。私は実は「反」なんですが……」というご意見も大歓迎です。(編集部)

機運を逃さず、女たちはさらに行動する——
 〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉
 総会を開く

一昨年の米兵による少女強姦事件に対してまっ先に声をあげ、その後、一貫して沖縄の運動のサチバイ(先駆け)となってきた〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉は、一月十日、沖縄県立女性総合センター「にいるる」で第四回総会を行なった。

九五年十一月八日に結成以来、激動する沖縄の状況に合わせて半年ごとに総会を持ちながら活動を進めてきた〈女たちの会〉は、九六年後期も、米コロンビア大学ティーチャーズカレッジのベティー・リアドン教授(平和教育学者、人権、女性問題についての著作多数)を迎えての「女性への暴力をなくす七日間行動」、オーストラリアで開かれた「未来の平和創造」国際会議でのワークショップ、旧日本軍の性奴隷とされた沈美子(シム・ミジャ)さんを迎えての「女性の人権を

考える集会」、「軍隊・海上基地に反対する女たち・子どもたち品ぐるみ集会」をはじめ、力いっぱい行動を展開した。各地からの要請に応じて、県内外、国外もふくめ、会員が手分けして沖縄の現状報告の講演を行った回数、半年(九六年七月〜十二月)でちょうど百回を数えた(その状況は今も続いている)。

総会では、この日に創刊された会の機関誌『ゆい』も配られ、半年間の活動の報告を受けて今後の行動計画を話し合うために、小グループに分かれての討論が行なわれた。女たちの会の定番となったこのやり方は、すべての参加者が普段のことばで発言でき、それが全体に反映される、とてもいい方法だ。議案として出された行動計画案が、参加者の討論の中でさらにふくみ、豊かなものにされていく。

九七年前期のおもな計画として、戦後五十年間の基地・軍隊による女性・子どもに対する暴力・犯罪の調査、県内全大学(六大学)への平和学および女性学の講座開設要求、「基地・軍隊と女性」国際会議の開催(五月一日〜四日、にいるるにて)、国内外ネットワークの

形成、人権・環境の特別調査官の派遣要請、米兵によるものをはじめ女性・子どもに対するすべての人権侵害（セクシュアル・ハラスメントを含む）被害者への支援、海兵隊の削減要求などが決定された。

五月の国際会議は、女たちがアメリカ・ピース・キャラバンで出会ったサンフランシスコ州立大学の教授から共同開催の申し入れがあり、米軍基地を持つ韓国、フィリピン、沖縄と、アメリカの女性研究者、活動家に参加して開かれる。

そのほか「経済優先で進められている基地の跡地利用にもっと人間や環境を大切にする視点を」「若い世代との連帯」「地域の女性たちとのネットワークをつくっていかう」「沖縄の状況をもっと知らせていくために本の出版を」、など多くの意見や提案が出され、ちよつと疲れ気味で参加していた私だったが、みんなのエネルギーをもらって、終わるころにはすっかり元気になっていた。

この日の総会には、千葉市から沖縄へ学習・交流の旅で訪れていた市会議員四人を含む七人の女性も参加

し、知恵を合わせて下さったこともつけ加えておこう。

（浦島悦子）

沖縄県、アメリカへ女性要請団を派遣

沖縄県は二月七日から十六日までの日程で、沖縄に駐留する米軍の兵力削減などを求めて、アメリカに女性要請団を派遣した。東門美津子副知事を団長に、赤嶺千尋県婦人連合会会長（副団長）、高里鈴代那覇市議（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会）、内海恵美子沖縄労働経済所長常務理事（同女たちの会）など八名に県スタッフを加えた十三名。ワシントンで第二期クリントン政権の国務、国防省、米国上下院議員、女性団体に要請するほか、ハワイで在日米軍司令官に沖縄の状況を直訴する。

東門副知事は新聞インタビューで「真つ先に伝えたのは海兵隊の兵力削減。SACOの最終報告を県は一定評価しているが、軍施設の県内移設は受け入れられない。今回の八人のメンバーは自然・環境・教育・

福祉などそれぞれの専門分野があり、日頃から基地問題に関心を持っている。現地の生の声は米国市民に大きなインパクトを与える。要請先で決まっているのはカーネギー平和財団、米国女性民主団体など。また、女性・人権問題に取り組んでいる女性議員に会い、女性の立場で要請したい」と抱負を語った。

〈NO・レイプNO・ベース女たちの会〉 日本政府に要求書を提出

二月四日（火）夕刻、東京でいくつかの女性団体、個人が参加している〈NO・レイプ NO・ベース 女たちの会〉のメンバー九人が首相官邸を訪れ、沖繩出身の照屋寛徳参議院議員の紹介で木寺昌人内閣官房長官秘書官に面会し、「沖繩から米軍基地を撤去し、女性への性暴力をなくしてゆくための要求書」を手渡し、申し入れ行動を行なった。

照屋議員は「沖繩は二十五年間、日本国憲法が適用されなかった。その空白を沖繩は忘れない」と訴え、

そのあと九人の女性が五月十五日の軍用地使用期限切れに対する特別立法の動きに関する質問を出したり、基地が移転しても女性の人権侵害問題は何も変わらない、面積も人員も縮小して欲しい、と訴えた。

特別立法に関する質問について、木寺秘書官は「政府としては不法占拠状態が起きないように、土地収容委員会の結果を見守っている。特別立法については今言うのは適当ではない」と明言はしなかった。

要求項目は以下の通り。

① 沖繩県内および本土移転を伴わない真の基地縮小、撤去の道を示すこと。

② 思いやり予算の違法性を認め、早急に提供を中止すること。

③ 基地、軍隊が存在する間の経過措置として、性暴力犯罪の再発防止のために軍隊内における人権教育プログラムを徹底して行うこと。

④ 普天間基地の代替ヘリポート建設案は基地の拡大につながるので直ちに中止すること。

⑤ 地位協定については運用の改善で終わらせず、容疑

者の身柄引き渡しを含む抜本的改正をすること。

⑥これまでの二国間安保を見直し、アジアの緊張関係をつくり出さないために、日本が自主性をもった政策をとること。

◆東京で全国の基地を考える集会

「どこでも基地はグメンだ！ 基地・軍隊・性暴力を許さない女たちの集会」

三月二十九日（土）一時半から エポック10ホール

（池袋・メトロポリタンプラザ十階）

全国各地の基地の町、基地被害者からの報告。

〔連絡先〕

婦人民主クラブ TEL 03-3402-3244

日本婦人会議 TEL 03-3816-1862

あこら事務局 TEL 03-3354-3941

沖縄百万人署名運動、

第一次提出は九万四千人

今年五月十四日の十一施設約三千人の軍用地強制使用期限切れを前に、来る二月二十一日に沖縄県土地収

容委員会の第一回公開審理が開かれる（第二回は三月十二日）。現在、期限切れまでに決裁が行われる可能性はほとんどなく、政府には特別立法によって「合法的に」対処するか、昨年の「象のオリ」のように不法占拠で居座るかの選択しかない。

特別立法に反対する「百万人署名運動」は、昨年八月下旬から開始され、日米特別行動委員会（SACO）最終報告を待つて、翌日十二月三日に第一次分として九万四千人の署名が衆参両議院議長に提出された。当日は国会提出に先立って各政党および首相への要請行動と記者会見が行われた。

現在すでに署名数は十万人を越えている。署名運動は五月の強制使用期限切れまで活動を続行することになった。第二次国会提出は二月末の予定。現在活動継続のために賛同金を（団体五千円、個人千円）募集中。

〔事務局〕

〒101 千代田区三崎町三ー一十八近江ビル四階

TEL 03-5275-5989

郵便振替 00140-4-110332

いま、神戸は、いま、私は

あごら213号『あれから女たちは 阪神大震災』
に「南光ふれあい基金」の協力を呼かけ、会員の方
からも基金を送って頂き、ご協力感謝しております。

第一回平成7年7月22日から第十四回平成8年11月
19日と一年以上の活動になりますが、冬は、寒さのた
め活動が休止、平成8年1月28日には、神戸の長田二
葉小学校での餅つきによる交流会で、それまで参加し
た子ども、関係者、地元の人たちと、南光町からの雪
竹馬、ひまわりの種のブローチ作りをして、交流を深
めました。

ボランティアとして、初めて子どもたちと接するよ
うになった私にとって、自然の中で子どもたちとの
ように接すれば心のケアにつながるのかわからないま
ま、子どものいない私が母のように話をして親しくし
たいと思って接していましたが、参加者の子どもの中
には、震災で母さんを亡くし、父さんも骨盤を折り体

への強い圧迫で起こるクラッシュ症候群で急性腎不全
になり入院、一人っ子で親類に預けられた君代ちゃん
がいました。母の死にショックを受けた君代ちゃん
は、私を拒否し、心を閉ざし、二十歳代の若い子を一
人独占したいと、その人から離れようとしませんでした。

一回目の参加者ということもあり、父さんが退院し
て仮設住宅に住んでいると聞いても、元気に暮らして
いるのが気になっていました。それが、今年の元旦、
神戸新聞に思いがけず君代ちゃんの父さんといっしょ
に笑顔が載っていました。お母さんの話もできるよう
になり、お父さんと元気に暮らしている様子がうれし
く、とても安心しました。

また、参加して来る子どもたちが、二回も、三回も
来たいと言ってくれることも喜びです。今は、高校生の
ボランティアも多く、遊び等で子どもに接すること
は少なくなりましたが、食事作りをいっしょにする時、
包丁でケガをしないように指導したり、子どもとじゃ
がいもや、大根、人参等の切り方を説明し、時には、

おばちゃんより上手な子どもには、家での手伝いの話をするのが私の楽しみにもなっています。今では、子どものケアをするというより、私のストレス解消かなあ、と思うくらいです。

子どもたちの心の傷が、「ふれあいキャンプ」に参加することで少しでも軽くなってくれることが、本当の意味で、私の喜びだと思っています。

娘さんを震災で亡くし、1月17日のまま心を閉ざして、表面で明るくしている友に、友達として接し、友の心が癒されることを願い、いつか娘さんの話ができる日まで、何か気持ちの支えの一つになれないかと思っています。

そして神戸の人が本当の意味で心から立ち上がって元気になることを祈っております。
(濱名 育代)

「被災者に公的援助を」

市民Ⅱ議員立法修正案発表

1月31日(金)、「被災者に公的援助を」市民Ⅱ議員立法実現推進本部の小田実さんから四人が記者会見、法案

の第二次修正案を発表した。

「実現可能で有効な法案」を目指して討論を重ねてきた修正案は、「焼け肥り」とか、「給付対象に差別がある」等の批判を解消したもの。「普賢・奥尻、そして神戸……。神戸は全国どこでも起こり得る問題」と、超党派で推進する予定。会場には、社民、新社会、共産、自民の各国会議員も出席、意欲を示した。

大災害による被災者の生活基盤の回復と住宅の再建等を促進するための公的援助法案

(略称 生活再建援助法案) 第二次修正案

97・1・25

一、前文

日本国は「主権在民」を基本とする民主主義国家である。日本国の社会で居住、生活するすべての市民は、つねに自らの生存・生活を守り、自らの社会の民主主義政治の形成、維持に対して必要な法制度の確立を議論する権利と義務を有する。

雲仙普賢岳大噴火、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災などを経験した日本国は、これらの自然大災害が

市民の生命、生活基盤に重大かつ深刻な被害をもたらすことを認識した。国と自治体はこうした大災害の被害を直接受ける市民を守るとともに、生活基盤の回復を支援することが公益に合致し、それに基づく生活再建が、被災地復興に不可欠であることを自覚しなければならぬ。生活者の生活基盤の土台回復のために、公的支援を行うことは国と自治体の責務である。国と自治体は、その責務を実現するために存在する。

以上の原理に基づき、市民の発議によって、大災害による被災者の生活基盤の回復と住宅の再建を促進するための公的援助制度として、この法律が制定された。国はこの趣旨に基づき、その適切な運用に勤めるとともに、将来にわたって、被害状況に即して援助内容を改善しなければならない。

第一条 (目的)

この法律は、前文に基づき、大災害において、被災地域に居住していた市民の生活と住居が被害に遇い、自助努力の基盤が破壊される状況に対し、被災市民の損失を補償するものではなく、国と自治体が、その生

活基盤の回復を援助し、住宅の再建・確保を促進するための公的援助資金の給付・貸付を行うことを目的とする。

第二条 (定義)

一、この法律において、大災害とは、災害対策基本法第二条第一項にいう災害の内、この法律の前文に示された雲仙普賢岳大噴火、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災などにより想定される程度の自然災害による被害をいう。

二、この法律において、被災市民とは、大災害において被災地域に居住し、その生活と住居に被害を受けた世帯をいう。

第三条 (生活基盤回復公的援助金の給付)

一、罹災証明の交付を受けた大災害の被災市民の生活基盤回復を目的として、被災市民の申請に基づき、次の金額の公的援助金を給付する。

- (1) 全壊 五〇〇万円
- (2) 半壊 二五〇万円
- (3) 一部損壊 五〇万円

(具体的な金額については、市民及び国会における議論によつて得られたコンセンサスによる。)

但し、罹災証明の発行を受けていない被災市民は、この生活基盤回復援助金の申請と同時に罹災証明の発行の申請を行うことができる。以下同じ。

二、被災市民は本件の申請をするか、災害減免法等に基づく所得税の減免措置の適用を受けるか、いずれか一方を選択することができる。

三、本項の申請及び支給は、大災害発生後三カ月以内に手続きを終えることとする。

第四条 (大災害被災における貸付措置)

一、住宅再建援助金の貸付

罹災証明の交付を受けた被災市民による住宅の再建に資するために、その申請に基づき、被災市民世帯主に對し、次の金額を住宅再建援助金として貸付けする。

(1) 貸付限度額 二〇〇〇万円

(2) 償還期間 三〇年

阪神・淡路大震災の場合、確定申告期限前に発生したことやその規模の大きさから、雑損控除の適用に特

例が認められ、又、被災減免法の改正が行われた。雑損控除は所得額に関係なく、三年間繰越計上が認められ、改正災害減免法によつては次のような所得税減免が受けられる。この二つの制度は選択的に適用される。

所得 五〇〇万円以下 税額 全額控除
七五〇万円以下 二分の一軽減

一〇〇〇万円以下 四分の一軽減

(3) 据置期間 一〇年

(4) 利息 二パーセント 但し一〇年間無利子

二、中小企業の経営再建援助金の貸付

罹災証明の交付を受けた被災市民の経営する中小企業(資本の額、出資の総額が三〇〇〇万円以下で、従業員が一〇〇人以下の会社又は個人)の経営再建に資するために、その申請に基づき、経営主体に對し、次の金額を中小企業経営再建援助金として貸付けする。

(1) 貸付限度額 一億五〇〇〇万円

(2) 償還期間 三〇年

(3) 据置期間 五年

(4) 利息 三パーセント 但し五年間無利子

三、本項の申請及び貸付は大災害発生後一年以内に手続きを終えるものとする。

第五条（実施機関）

この法律による生活基盤回復援助金の給付、住宅再建援助金の貸付等の実施は、被災市町村がこれを行う。

第六条（財政措置）

国は、この法律に基づく各援助の給付、貸付の支給申請をなしたものは、実施機関のなした処分に對し、不服申立てをすることができる。

付則

第一条

この法律は国会において制定された日より効力を生ずる。

第二条

この法律は、一九九五年一月一七日に発生した阪神淡路大震災における被災市民に對し、遡及してこれを適用する。阪神淡路大震災の被災市民が既に災害減免法等にもとづく所得税の減免措置を受けた場合は、そ

の減免税額相当額を控除して支給する。

*

賛同国会議員は1月17日現在で衆議院議員四八名
参議院議員は二九名に達している。党派を超え、法案提出に必要な衆院五一、参院二一人まであと一步。
与党自民党は「個人補償はしない」としているが、
自民党議員の法案賛同者も現在三名いる（衆院・阪上善秀、山口泰明 参院・畑重忠）。与党への切り込みが今後の課題。

〈推進本部〉は阪神・淡路大震災被災地からの緊急・要求声明への支持署名を継続して行なっている。

◆連絡先

〈東京本部〉

〒113 文京区本郷3-37-3フジミビル303

TEL 03-3813-6584

〈兵庫本部〉

〒659 芦屋市船戸町4-1-301 山村サロン

TEL 0797-38-2585



「自由主義史観」―自画自賛史観を批判する

話題のテーマとあつて1月28日、東京文京区の会場は超満員。明大文学部の山田朗・助教授は、「自由主義史観」の論調がエスカレートした過程を概説した後、藤岡氏の主張する史観の特徴として①健康なナショナリズム②戦略論的リアリズム③脱イデオロギー④官僚主義批判の四点があり、これは「司馬（遼太郎）史観」の四つの特徴とほぼ同じだと分析した。司馬史観との共通性を強調することによって大衆の共感を得ようとしているが、司馬氏の作品は小説であり、歴史をフィクションと混同するものと、明石元二郎の言動を利用した例などを具体的にあげて明快に論破、最も重要なのは「自国に対する肯定的イメージでなければならぬ」としている点であると、歴史学者の立場から指摘された。非常に興味深い二時間だった。

(い)

三重大学地域共同センター公開シンポジウム 「女性政策と草の根の女性活動」

―そのパートナーシップを考える―

去る1月27日(月)午後1時半、寒波と寒波のあいだにやってきた、ほんのり暖かい日に開催された三重大学地域共同研究センター主催のシンポジウム。

研究発表をする高橋ますみさん、パネリストの柏木はるみさん、岡田康之さん、土川禮子さん、坂倉加代子さん、武村洋子さんのパワーが合流。その意気込みが多くの方々に伝わり、会場の三百席は満員となった。

テーマは「女性政策と草の根の女性活動」―草の根で活動する女性たちと、行政で活躍する女性たちが同じテーブルにつくこと―今までにないシンポジウムへの期待が集まっていた。

三重大学小ホールで開始され、ほぼ三時間。一人ひとりの参画者、パネリスト、研究者、それぞれの意見で会場は大きく対流した。この流れをそれぞれの地域、ネットワークへとつなげていくこと。シンポジウム開催の意義は、そこにあるにちがいない。

(渋谷典子)

高橋ますみ（三重大学地域共同センター客員教授）

フエミニズムは二〇世紀最大の思想改革と言われる。一九七五年第一回世界女性会議（メキシコ）で採択された行動計画の序章に「あらゆる分野に女性も参加すると同時に、男性も家庭責任を女性と全く一緒に持つ」ということが書かれていて、日本も採択している。

あれから二十二年、女性の意識改革は進み、ネットワークもできつつあるが、男性はなかなか変化しない。その中で行政の女性も苦勞している。一方民間にとつて行政はまだ敷居が高い。辞令をもらった時、地域共同センターという場を利用して、行政と民間が壁を越えて個として平場で議論し、よい形を研究することはできないかと思い、三重県と県下の自治体において回った。この一年、センターの研究室で毎月一回第四月曜日の午後に勉強会を開き、行政の女性政策担当者や地域の活動家の方たちが主に参加した。こういう形によって、個と個が出会って信頼関係を結び、地域社会の新しい価値を、女性たちが男性の真似ではなく作りだしているのではないかと思っている。

柏木はるみ（TSUアイリス・代表）

アイリスは一九八九年、三重県第二次女性行動計画を受け

て一九八八年に女性問題アドバイザー講座が開かれた後、講座終了生有志で結成した。

女性には自分らしく生きることを妨げるさまざまな要素があるが、女性問題を考え活動することにも当然困難（家庭・社会など）がある。女性たちが生きにくいと感じることが女性問題なので、一人ひとりのそれぞれの事情を思いやり、「できる時に、できることを、できる人がやる」という会員間のパートナーシップを大切に活動している。

たとえば行政と民間もそうだが、二者間のパートナーシップとは①頼ったり頼られたりしない自立的な関係②支配したりされたりしない対等な関係③互いに認めあう関係④信頼しあう関係⑤個を尊重する関係⑥支えあう関係⑦どんなことでも話し合う関係、だと考える。また、すべての女性は女性問題の専門家という考えで、形態は平面上の同心円的で、内にも外にも開かれたものでありたいと考えている。

岡田康之（すくーるひろば・主宰）

三重県下有数の進学塾で教えて来て、「教え込むと字ばなくなる」ことを痛感し、二年前に「教えない塾」（すくーるひろば）を始めた。収入減を見越したつれあいは、パートの看護婦から正職員になることを決意したが、夜勤ができなければ

正職員になれない。相談の上週に三日は夕食を私が作ると決めたことが私の女性問題との出会いになった。豪華な食事を作るのではなく、作りつづけることで、何が家庭を支えているのかが少しずつ見えてきた。やりたくないときにやりたくないことをやることでしか学べないことがある。

私自身が学ぶためにも、自主講座を積み重ねている。二月には神戸元氣村代表の山田和尚さんを招く。震災二年後の神戸の現状から「街づくり」をテーマに学ぶ企画だったが、原油流出事故が起こり、山田さんは福井県三国町に駆けつけた。タイトルは「神戸」だが、話のメインは福井になるだろう。市民サイドの企画ではこんな風に臨機応変に内容の変更が可能だ。

その企画の後援や協力を依頼するために市役所や県庁の人たちと話を重ねてきてわかったのだが、行政ではそうはいかないようだ。一年くらいは論議して決済がおりないとゴーサインが出ない。そしていったん決済がおりたら、それをくつがえすためには倍以上の時間と労力が必要になる。

行政でしかできないことと市民でしかできないことがある。

行政と市民が相互に情報を交換しながら、それぞれの取り

組みをすすめていける関係ができれば良いなと思っている。
坂倉加代子（四日市市女性課・課長）

昨年八月に四日市市女性センターが誕生。女性課も女性センターも一番市民に近い市民部に属し、なるべく役所の垣根をはずして開放的にしようとしている。

女性課や女性センターは何をするところか考えると、女性の力をつけるところ、という表現もできる。女性課で女性相談をやっていると、今女性たちにとって解決しなければならぬ問題が山ほどあると痛感する。

個人やグループが力をつけるために、今までのように女性センターが行事をもって、女性がお客さんで来る時代は終わった。もつと女性市民が主役になり、女性課や女性センターが支援に回るという形が必要。四日市では女性センターに魂を吹き込むために、女性市民に「こんな女性センターがほしい」という意見をまとめてもらい、それをそのままコンセプトとして使わせてもらった。まさにパートナーシップ。また地域で家庭を支える「ファミリーサポートセンター事業」を女性センターで行なうことになり、そのために「子育てボランティア養成講座」を行い、十人の女性市民に任せて運営にあたっている。女性の課題・事業・人をつなげるのが女性課・

女性セクターの役割と思う。

土川禮子（三重県女性政策審議監）

女性行政は一九七五以降に始まったので歴史が浅く、今までの行政の手法では通用しない。女性たちが勉強し、力をつけ、さらに各地域の女性たちに還元していくリーダーになつてほしい。例えば子育て中・障害者・高齢者などは勉強しに行こうとしてもなかなかできないが、女性が地域に返していくことで学ぶことができる。人権を大事にし、社会の中で育つていく視点が重要。女性行政の基本理念もそこにある。

三重県の女性は女性行政の応援団として大きな役割を果たしている。これからますますいいパートナーシップを発揮し、地域のニーズに答える事業に取り組んでいけば、三重県の女性がいきいきと生きていける女性政策につながるのではないかと期待している。

三重では「みえの男女共同推進プラン——アイリス21」を平成7年8月に策定し、男女共同賛画の実現を図っている。その中で、平成10年末までに審議会の女性委員の登用20%という目標を設定している。

武村洋子（三重県男女共同参画推進協議会会長）

キーワードは「ネットワーク」と「コミュニケーション」。女性

といっても一様ではないが、平場で話すことが大切。私はフルタイムで働いている時、忙しくて何もできなかった。今は能力も時間もある主婦層が地域のリーダーになる時代。

この勉強会が大学で行なわれていることは感無量。歴史的に見ると、ヨーロッパ中世に大学ができた時は、空間的なものではなく、学問をしたい人の集まりが「大学」、つまりネットワークそのものだった。大学を貫いているのは「真理の普遍性・世界性に対する信念」。しかし、女性はずっと大学から排除されていた。十四、五世紀になると学識者しかれない仕事（医者や行政官）も増え、女性はその職域から排除されて地位が更に低くなった。ただ、市民と大学のあいだに協力関係はあった。

そういう歴史をふまえて、大学は市民に対して単なる場の提供だけではなく、大学が地域に貢献する必要がある。昨年から勉強会で、肩書きをはずしたネットワークができた。男性の場合ピラミッド型になりやすいが、平らな相互的なネットワークが望ましい。女性政策は単に行政との情報交換ではなく、連動がなければいけない。そして方針決定の場に女性を押し上げていくことが必要。今日のシンポジウムはそのためのものと理解している。

〔224号を読んで〕

北海道苫小牧市の一会員ですが、先日
女性センター特集を拝見しペンをとりました

ここ苫小牧市にも、二年程前、社協（社会福祉協議会）と女性センターが一緒になったビルが新築オープンしました。私もサークルで何度か利用しましたが、なかなか利用しづらい点が多々あります。「お役所って……」と、ため息をつきたくなるような事が度々ありました。

建物はとても立派できれいです。場所も市の中心部で駐車場も広く、よい所です。でも、なかなか足が向きません……その理由……。

・職員の方たちが、規則にうるさく、態度が冷たい、きびしい。（館長さんは女性です……念の為に悪い方たちではないと思いますが……いかにも「お役所」という対応です。

・一、二階は社協で四階に女性センターの事務所があり、エレベーターで登っていき、それから四階、五階に行かなくてはいけない（休日の時のみ、一階で管理人が鍵を受け渡す）。

・利用申し込み、予約には直接出向いて書類を提出しなければいけない……結構大変です。継続して一つのグループが数か月先まで申し込みをさせてもらえませんか。女性センター主催の講座修了生が作ったサークルだけは登録され、決まった曜日に使用できます。私たちのように外部の自主サークルはだめです。

・託児……プレイルームがあり、あいていれば使用、託児できるが、保護者がそばにいないとダメなので、メンバーの誰かを託児につけるか、別の人をやとわないとダメである。女性センター主催の講座や催しには託児があるが、二歳以上が対象です。私は五か月の赤ん坊を連れて申

し込みに行き、「とてもおとなしい子で邪魔にならないと思うので、子連れで受講したい」旨申し出ましたが、絶対にだめでした。「いろんな考えの方がいますから……」とのことでした。（二歳未満の子を持つ母は祖母にでも預けられない限り、受講不可能……）。

また、プレイルームよりはるかに広い「交流学習室」という親子で座って遊べるいろんな遊具やオモチャのある部屋があります。そこは子連れで借りと、子どもを遊ばせながら親も話ができるという点では良い（集中した話合いはできませんが）のですが、そこもダメです。その部屋は「親子で何かをする場所」で、「大人が会議をする部屋」ではないのだそうです。そんな事をすると子どもに目が行き届かず「何がわかるからない」のだそうです。純粹に子どもと遊ぶ、遊ばせるのなら良いそうですが……。しかもその場にあるオモチャ類はす

べて「おもちゃライブラリー」のもので女性センターのものではないので、使用してはいけないそうです！ そんな事言ったって子どもにわかるはずありません。目の前に山ほどあるのですから……。最初に私たちが主旨を話してこの部屋を借り、当日行き、あらためて目的を話すと、「今回はまちがってお貸ししましたが、今後はお受けし

かねます」と言われました。押し問答の末「それは「NO」という意味ですか」と聞くと、「そうです」と言われました。しかし背に腹は変えられず、「親子交流」といつわって借り、こっそりオモチャであそばせて、使用したことも一度ありました。

だいお後になり、サークルの会議のため四階会議室と五階プレイルームを借り、五階で子どもを遊ばせ、終了後、五階に迎えにいき、四階にまだ残っていた親の所へ連れて来て皆帰る支度をしていました。その時、四、五歳の子どもたちが、廊下を走って遊んでしまったのです。「あなたたち何をやっているんですか！」突然職員の方がとなりこんで来ました。「ここはそんな場所

じゃないですよ！ 何か事故でもあったらどうするんですか！」あまりのけんまくに最初は口もあんぐり、目を白黒するばかり。その後は平謝りです。

曰く、子どもからは片時も目を話してはいけない。プレイルームにはすべての用が終わり、帰る支度をしてから迎えに行き、そこからまっすぐに帰ること。この建物は子ども建物ではないので、プレイルームから出さないこと、窓から、階段から落ちたら大変である、今後このようなことがあったら二度と使用は許可できない。云々。説教は激しい口調で続き、私たちも騒いでは悪いと思い、「すみません。申し訳ありません」をくり返すが、最後まであまりに強硬なむこうの態度に、腑に落ちないものがあった。以後私は「女性センター」と聞いただけで気が重く、はてしなく利用しづらいのです。三、五歳児を「走らせずに」「静かに」させておくのは至難の技です。

平面の廊下を十メートル位の間キヤツキヤツと走って行ったりきたりしただけです。他所で会議もやっていなかったので、

私個人はむしろ楽しそうにしているようで、安心して声を聞いていたのに……慣れた自宅の窓や階段ならともかく臆病な幼児がセンターの大きな窓によじのぼったり、長いうす暗い階段室に行くとは思えない……せいぜい母の姿の見える所で走る程度です。私たちの仲間は乳幼児の母が多く、慣れて遊ぶまでにとても時間がかかったのです。要するに、母親はわが子から一時も目を話すな、というのです（特にセンター内では……）。

しかし二十四時間三百六十五日、そんな事が、できるわけはなく、事実、家の中では掃除しながら炊事、洗濯しながら、洗いのをしながら子どもをちよつとみるというのが大半です。母親一人に子どもの全責任が押しつけられすぎていると思います。

ちよつと本題からはずれましたが、センター内では他の大人（職員他）の目もあるし、広く長い歩いている人もいない廊下をちよつと走る位いいかな……と、逆に安心していった私の甘い考えは奈落の底につき落とされてしまいました。たんなるわがまま

母でしようか？

また、別な時、サークルで、とある催し（講座）を主催したいと思ひ、会場を借りたかったが、社協、女性センターともだめでした。講師への謝礼、交通費を支払うために当然会費を集め、また、一般の受講者も募集したいのですが、「そのような利用はできない」との事でした。無料でなければダメなのです。その他、オートロックで時間通り閉まるので一分でも時間オーバーしてはいけない……等々。

設備も立派で、すばらしく、無料で使用できるので、とつても利用しづらいのです。売店がない、ロッカーがないなど是我慢できますが、職員の対応に暖かみがあり、利用しようという気になれるようであつてほしいです。時々、同じ人間なんだろうか……と、言葉が通じなくて疑問に思うことが多々ありました。

お役所つてどうして……役所や役人に頼ろうとするのがまちがいなんでしょうか？会場探しには本当に疲れてしまします。お金も時間もない私たちですから……。

現代の乳幼児を持つ母は閉そく・孤立した状況の中、大変な肉体的、精神的負担、プレッシャーをかかえています。私自身は二世帯、一軒家、夫は有閑自営業で子ども好きという恵まれた状況にあります。でも、やはり出産後の様々なあつれきの中、悩んだ末、フェミニズムにたどりつきました。友人たち、現代の若いお母さんたちのほとんどは核家族、夫はサラリーマンで平日はほぼ母子家庭状態、住まいはアパート2LDK……という状況で、密室母子密着育児にならざるを得ない状態です。

皆毎日、綱わたりです。自殺、ノイローゼ、虐待……起こらないほうが不思議なほどです。でも、皆、子ほんのうで、いっしょうけんめい子育てしてます。いつかこの問題をとりあげていただけないでしょうか。

先日、北海道新聞の投書欄に「少子化」のテーマコーナーがあり「???」と思うようなのがいっぱいありました。

『母性は女の勲章ですか？』も読みました。皆よい母たらんと必死です。周囲がそう要求するのです。

「子どもが大きくなるまでは家にいたら」
「そんなに今無理しなくても……」
「すぐ大きくなるよ」
「子どもさんをしつかり育ててから好きな事をしなさい」

聞きあきたことば……。
子育てが終わってからでいいじゃない。
ひとの台詞は、いつもおんなじ。

〔土石流災害に思う〕

（苦小牧市 RII）

姫川土石流の災害現場に民間の地元の人により慰霊碑が建てられました。

12月20日に搜索は雪解けの春まで中断されましたが、搜索が行われている最中に国（林野庁・農水省・建設省）と長野県は「天災宣言」をしました。慰霊碑が民間人によって建てられたことを、国や県の役員らはどう捉えているのでしょうか。責任のがれの「天災発言」の後が今問われなければ、と思います。折をみて「喪に服す斎藤千代さんの思い」を慰霊碑に伝えるに行こうと思っています。

（新潟 鈴木勢子）

〔五年別居離婚に反対し、女性の自立を考
える〕

民法改正がいわれるようになって四年が
経つ。この二月に法案は国会に上提、とマ
スコミで報道されている。法案の中で第一
に議論されているのが夫婦別姓で、橋本首
相は男女共同参画プランの中に夫婦別姓を
入れたと言っている。次が非嫡出子の相
続分の変更―相続差別廃止である。この二
つは市民運動から起こった問題であるか
ら、一般に関心が高いのだと思う。しかし、
法案の中には七七〇条を改正し、「五年別居
離婚、破綻離婚」条項の導入がある。『あこ
ら』224号で二宮純子弁護士が述べたよ
うに、この条項は女性にとって不利、とて
も公平な離婚ができるとは言えない。民法
改正法案は夫婦別姓、非嫡出子の相続分の
変更、五年別居離婚・破綻離婚条項などセツ
トになっているが、個々のにもって議論を
し、本当に弱者有利の法改正であるか検討
が必要である。（名古屋市 柳沢つや子）

◆名古屋発信〈五年別居離婚に反対し、女
性の自立を考える会〉集会のご案内

日時 3月16日（日）

午後一時半～四時

場所 名古屋市勤労婦人センター

（地下鉄鶴舞線鶴舞下車①出口徒歩5分）

テーマ 五年別居離婚・法案の動向

講師 亀井とも子弁護士

二宮 純子弁護士

参加費 三百円（コーヒー付）

連絡先 052-196215460（亀井）

〔編集後記〕

◆中国で日本語教師をしていた94年から95
年、日本の閣僚の「妄言」や靖国参拝を聞
くたびに緊張しました。中国の人たちが私
に何を言うわけではないけれど、もし「ど
うして？」と言われたら恥ずかしくて答え
られない。私たち日本人教師はみんな怒っ
ていました。せつかく日々積み上げてきた
中国人との信頼を、あんな一言で崩された
らたまらない！。

藤岡さんに言いたい。たった一人でアジ
アを旅してみてください。もしあなたの目
が本当に見えるのなら、旧日本軍の残した

傷跡が見えるはずですよ」と。

話は変わって、2月1日・2日と名古屋
で「あごら企画会議」を開催しました。創
刊当時から会員さんから昔の〈あごら〉
の話をうかがったり、収穫の多い会議でし
た。議題の中心になった25周年記念事業に
ついては次号でご紹介しますが、皮切りと
して『創刊号復刻版』をお届けします。今
見ても新鮮な内容。資料としてもお役に立
つと思います。（礼）

◆アツというまに広がった自賛史観。前の
戦争も、気がついた時はトリモチに足を奪
われていました。

いまなぜ何を主張しようとしているの
か？ 市民の抗議行動は？ この号では基
本的な資料をまず掲載しました。

胸にあふれる言葉をぜひ寄せてくださ
い。この問題を引続き真剣に追究します。

日本海には重油、沖縄には劣化ウラン……。
「日本は今真つ逆さまに、でも女たちがい
る」――寿岳章子さんのおハガキに励まさ
れています。（千）

財政ピンチです。1人が1人、新しい会員をふやしてください。3月までに新会員をご紹介下さった方には、下記の本の中から新会員1人につき1部ずつ（*は2人で1部）、ご希望の本をプレゼントします。

辻 みゆき

女ひとりドケチ旅

神戸港からポーランドまで、44日間8万円の超ドケチ旅。23歳の夢とユーモアがいつばい! 元気の出る本です。イラスト写真入り。近刊

戦時下勤労動員少女の会

*少女たちの

勤労動員の記録

日本の中での強制連行。一三八〇校の史実を洗い、国家権力のすさまじさを検証した力作。第二回PCJF賞受賞。B5判 三八〇〇円

山下智恵子

幻の塔

信じていた人は特高のスパイだった! 戦前のハウスキーパーの実像を描きだした衝撃の作品。好評重版。四六判 一九〇〇円

白鳥美津子

ほおずきの詩

子育てしつつ家事をしつつ、平凡な「日常」の中から、小さな「非日常」を詩画集に。心あたたまる言葉の数々。B5変形 一五〇〇円

斎藤 千代

ガンさんありがとう

闘つな、でもなく、闘うのでもなく、いつも自然体。だから元気なのでしょう、という筆者の率直なドキュメンタリー。B6判 近刊

あごら 227号 ●発行 1997年3月10日

●編集 あごら新宿

●発行所 あごら MINI 編集部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替 00100-0-5264

●定価1030円（本体1000円）

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし

そして あなた

かけがえない地球

かけがえないわたし

かけがえないあなただから

たいせつに たいせつに しよう

あなたも

わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

へあごら

人と人の出会うひろば

へあごら

人と人の共に生きるひろば